

Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー)

管理ガイド



Part No: E35599-01
2012年7月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	7
プロダクトノート	7
関連ドキュメント	7
フィードバック	8
サポートとアクセシビリティ	8
管理リソースの理解	9
関連情報	9
共通の管理ツール	9
Oracle ILOM の概要	11
BIOS の概要 (管理)	13
OSA の概要	15
HMP	16
ハードウェア RAID 管理ツール	17
複数台構成のサーバー管理ツール	18
管理ツールへのアクセス	19
関連情報	19
Oracle ILOM へのアクセス	19
BIOS へのアクセス	27
OSA へのアクセス	34
アドオンカード構成ユーティリティにアクセスする (BIOS)	38
サーバーの管理	41
関連情報	41
電源状態の管理	41
Telco アラーム状態を手動で変更する	44
電源投入およびブートオプションの構成	47
関連情報	47
電源投入ポリシーの構成	47
ブートデバイスの選択	50

Oracle ILOM の構成	55
関連情報	55
Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM CLI)	55
Oracle ILOM の root パスワードを回復する	56
Oracle ILOM の構成 (Oracle ILOM Web インタフェース)	57
SP および Oracle ILOM の構成 (BIOS)	70
SP と Oracle ILOM を設定する (OSA)	72
強化された PCIe 冷却モードポリシーを構成する (Oracle ILOM CLI)	78
BIOS の構成	81
関連情報	81
BIOS のデフォルト設定へのリセット	81
レガシー Option ROM の割り当ての構成	84
I/O リソースの割り当ての構成	87
BIOS でのデバイスの構成	88
OSA の有効化または無効化	91
関連情報	91
OSA を無効にする	91
OSA を有効にする	92
サーバーの監視	95
関連情報	95
サーバーのシリアル番号を取得する	95
サーバーの位置を特定する (Oracle ILOM Web インタフェース)	96
サーバー情報の取得	97
サーバーの健全性の監視 (Oracle ILOM Web インタフェース)	100
SNMP トラップの理解	103
ファームウェアとソフトウェアの更新	121
関連情報	121
新規の OSA リリースに更新する	122
ファームウェアを取得および更新する (OSA)	123
OSA を復元する	125
更新ソフトウェアの取得	126
物理メディアの更新リクエスト	128

用語集 133

索引 141

このドキュメントの使用法

このドキュメントでは、Oracle ILOM、OSA、およびBIOSなどの組み込みのユーティリティを使用して Oracle の Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー) を管理する方法を説明します。

サーバーの OS を介して管理タスクを実行する方法については、OS のドキュメントを参照してください。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ向けに記述されています。

次のトピックで構成されています:

- 7 ページの「プロダクトノート」
- 7 ページの「関連ドキュメント」
- 8 ページの「フィードバック」
- 8 ページの「サポートとアクセシビリティ」

プロダクトノート

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、次の場所にあるプロダクトノートを参照してください:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraServerX3-2>

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Netra Server X3-2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraServerX3-2
Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) 3.1 ソフトウェアライブラリ	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31

フィードバック

ドキュメント

リンク

Oracle Solaris OS およびシ
ステムソフトウェアライブ
ラリ http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/#sys_sw

Oracle Linux <http://linux.oracle.com/documentation/>

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明

リンク

My Oracle Support を通じた電子的
なサポートへのアクセス <http://support.oracle.com>

聴覚障害の方へ:

<http://www.oracle.com/accessibility/support.html>

アクセシビリティに対する
Oracle のコミットメントについ
て

<http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html>

管理リソースの理解

次の各トピックを参照して、サーバーの各種管理リソースについて理解してください。

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 15 ページの「OSA の概要」
- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

関連情報

- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

共通の管理ツール

サーバーを管理するためのツールが多数用意されています。各サーバー管理ツールには固有の機能がありますが、一部の機能は重複しています。各ツールは個別に使用することも、複数のツールを併用して包括的なサーバー管理を行うこともできます。

この表では、サーバーで利用できる共通の各種管理ツールの一覧を示します。

注-OS 経由で実行する管理タスクについては、使用中の OS のドキュメントを参照してください。サポートされている OS の一覧とドキュメントへのリンクは、『サーバー OS インストール』を参照してください。

ツール	説明	可用性	参照先:
Oracle ILOM	SP に組み込まれている単独の OS。Oracle ILOM を使用してサーバーコンポーネントを構成および管理できます。Oracle ILOM を使用すると、専用ポート、サイドバンドポート、ローカルシリアルポートに、ローカルまたはリモートで接続できます。	ホストの電源が入っていない場合、主電源が供給されているかぎり、Oracle ILOM はいつでも使用できます。	11 ページの「Oracle ILOM の概要」
BIOS	電源を投入してから OS がブートされるまでの間、サーバーを管理するファームウェア。BIOS には、ファームウェアレベルでサーバーを管理するための設定ユーティリティが用意されています。	BIOS 設定ユーティリティは、BIOS が初期化される短い時間に使用できません。BIOS 設定ユーティリティは、サーバーがいったん OS のブートを開始すると使用できません。	13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
OSA	サーバー内部の USB ドライブに組み込まれている設定ツール。OSA を使用すると、ローカルまたはリモートでのファームウェアの更新および構成、ハードウェア RAID レベル 0 および 1 の構成、サポートされている OS のインストールを実行できます。	OSA は、BIOS 初期化中の短い時間のみ使用できます。OS ブート後は、OSA をファイルシステムとしてマウントできません。	15 ページの「OSA の概要」
Oracle HMP	SNMP を使用してリモートで、HMP ツールを使用してリモートで (SSH などのリモートシェルを介してホスト OS に接続)、または CLI ツールを使用してローカルで、ホスト OS からハードウェアを管理するためのアドオンソフトウェアパック。	インストール後は、HMP をホスト OS から使用できます。	16 ページの「HMP」

関連情報

- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 15 ページの「OSA の概要」

- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

Oracle ILOM の概要

Oracle ILOM はサーバー SP にインストール済みのシステム管理ファームウェアです。Oracle ILOM を使用すると、サーバーの電源状態に関係なく、サーバーをローカルまたはリモートで管理できます。Oracle ILOM は、サーバーに電源が供給されるとすぐにブートし、サーバーがスタンバイ状態でも使用できます。

Oracle ILOM と対話するには、ブラウザベースの Web インタフェースまたは CLI を使用します。使用中の環境で、SNMP または IPMI インタフェースを介して使用するよう Oracle ILOM を構成することもできます。

Oracle ILOM の全般的な情報については、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントを参照してください:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

次の表は、Oracle ILOM の機能一覧です:

Oracle ILOM の機能	可能な操作
Web インタフェースと CLI	Oracle プラットフォーム全体に共通するシンプルで標準化された形式でサーバー情報を表示します。
専用のサービスプロセッサとリソース	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムリソースを消費せずにサーバーを管理します。 ■ サーバーの電源が入っていない場合でも、スタンバイ電源でサーバーを管理します。
シンプルな Oracle ILOM 初期構成	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM は、IPv4 および IPv6 のデフォルト設定を使用して、サーバー SP または CMM のネットワークアドレスを自動的に検出します。 ■ BIOS 設定を構成します。
ファームウェア更新のダウンロード	<ul style="list-style-type: none"> ■ ブラウザベースの Web インタフェースを使用してファームウェア更新をダウンロードします。

Oracle ILOM の機能	可能な操作
リモートハードウェアの監視	<ul style="list-style-type: none">■ システムの健全性とシステムイベントログを監視します。■ ハードウェアイベントログを監視します。■ 監査イベントログを監視します。■ CRU と FRU (電源装置、ファン、HBA、PCI デバイス、ディスク、CPU、メモリー、マザーボードなど) を監視します。■ 環境温度 (コンポーネントの温度) を監視します。
ハードウェアと FRU のインベントリおよび有無	<ul style="list-style-type: none">■ インストール済みの CRU と FRU およびそれらの状態を識別します。■ パート番号、バージョン、製品シリアル番号を識別します。■ NIC カードの MAC アドレスを識別します。
リモート KVMs	<ul style="list-style-type: none">■ シリアルポートおよび LAN 経由でシステムのシリアルコンソールをリダイレクトします。■ KVM にアクセスします。■ OS のグラフィカルコンソールをリモートのクライアントブラウザにリダイレクトします。■ リモートの CD、DVD、フロッピーをリモートストレージとしてシステムに接続します。
ホスト電源の管理と監視	<ul style="list-style-type: none">■ システムの電源をローカルまたはリモートで投入または切断します。■ 緊急停止のために強制的に電源を切断したり、正常な停止を実行してホスト OS を停止してから電源を切断します。■ Web インタフェースを介して、電源管理および電源履歴チャートを監視します。
ユーザーアカウントの構成および管理	<ul style="list-style-type: none">■ ローカルユーザーアカウントを構成します。■ LDAP、LDAP/SSL、RADIUS、および Active Directory を使用してユーザーアカウントを認証します。

Oracle ILOM の機能	可能な操作
エラーと障害の管理	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一貫した方法でイベント（サービスデータとして使用）を記録します。 ■ ECC メモリーエラーなどのハードウェアおよびサーバー関連のエラーを監視し、レポートを専用のユーザーインタフェースページに表示し、SP ログ、syslog、リモートのログホストに出力します。 ■ 障害に対処するための保守作業を実行すると、Oracle ILOM によって、大半の障害状態が自動的にクリアされます。
SNMP トラップ、IPMI PET、警告などのシステム警告	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業界標準の SNMP コマンドと IPMItool ユーティリティを使用してコンポーネントを監視します。

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 15 ページの「OSA の概要」
- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

BIOS の概要 (管理)

サーバーの BIOS ファームウェアは、電源を投入してから OS がブートされるまでの間、サーバーを制御します。

BIOS には、管理用に BIOS 設定ユーティリティが用意されており、サーバー情報の表示、サーバーコンポーネントの構成および有効化と無効化を実行できます。

サーバーの BIOS は UEFI 仕様に基づいています。ただし、この BIOS では、レガシー BIOS と UEFI BIOS 互換の OS のどちらを使用してもブートできます。

サーバーの BIOS は、次のどちらかのモードで動作するように構成できます。

- **レガシー BIOS (デフォルト)** - サポートされているすべての OS で使用できますが、最新の BIOS 機能は提供されません。
- **UEFI BIOS** - 最新の BIOS 機能が提供されますが、次の OS でしか使用できません:
 - Oracle Enterprise Linux
 - SUSE Linux Enterprise Server SP1
 - Red Hat Enterprise Linux
 - Microsoft Windows

一部のデバイスは、UEFI ベースの BIOS をサポートしていないため、レガシー BIOS からのみブートできます。状況によっては、サーバーの BIOS をレガシー BIOS モードまたは UEFI ブートモード向けに構成する必要がある場合があります。

レガシー BIOS によるブートしかサポートしていない OS を使用している場合は、レガシー Boot モードを使用する必要があります。レガシー BIOS または UEFI BIOS によるブートをサポートしている OS を使用している場合は、BIOS をどちらのモード向けに構成してもかまいません。ただし、いったんどちらかのモードを選択して OS をインストールしたあとは、インストール時に使用したモードと同じモードでしかブートできません。

必ず使用するモードに合わせてサーバーの BIOS を構成してから OS をインストールするようにしてください。BIOS のモードの変更に関する詳細は、『サーバー OS インストール』を参照してください。

レガシー BIOS モードと UEFI ブートモードの間で切り替えを行う場合、切り替え前のモードの設定は保持されません。

以前の BIOS モードに戻したときのために以前の BIOS 設定を残しておきたい場合は、`ueficonfig` を使用して BIOS 設定を取得し、保持しておくようにします。`ueficonfig` に関する詳細は、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>) を参照してください。

UEFI ブートモードを選択する利点は次のとおりです:

- レガシー Option ROM のアドレスの制約を受けません。詳細は、88 ページの「I/O リソースの割り当てを有効または無効にする」を参照してください。
- 2T バイトを超える OS のブートパーティションをサポートしています。
- PCIe デバイス構成ユーティリティーが BIOS 設定ユーティリティーのメニューに組み込まれています。
- ブート可能 OS イメージがブートリストにラベル付きエンティティとして表示されます (たとえば、raw デバイスのラベルではなく、Windows ブートマネージャーのラベルが表示されます)。

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 15 ページの「OSA の概要」
- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

OSA の概要

OSA は、Oracle サーバー用の単一サーバー管理ツールです。OSA は、サーバー内部の USB ドライブにインストール済みです。

OSA は、さまざまな管理製品を統合化したもので、使用中のサーバーの起動と管理を迅速かつ簡便に行うためのツールスイートになっています。

OSA のコンポーネントは次のとおりです:

- OSA アプリケーション
- HMP (インストールされている場合。16 ページの「HMP」を参照)
- Oracle Linux コマンド行環境
- OS ソフトウェア、ドライバ、ツール
- サーバー固有のファームウェア

OSA を使用して、OSA の更新およびサーバーのファームウェアとドライバの更新を取得できます。

OSA には GUI が用意されており、これを使用して、サーバーに OS がインストールされているかどうかに関係なく、各機能にアクセスしたりタスクを実行したりできます。サーバー上で OS が稼働したあとは、OSA ツールとドライバは通常のストレージデバイス上のファイルとして表示されるため、OSA をリソースメディアとして使用できます。

OSA を使用すると、次のタスクを実行できます:

- 利用可能な最新の BIOS、Oracle ILOM、ファームウェア、およびドライバを Oracle から入手する (インターネット接続が必要)。
- BIOS、Oracle ILOM、オプションのアクセサリやその他のサーバーハードウェア用の Oracle 認定デバイスドライバを更新する。
- サポートされている LSI ディスクコントローラを搭載したサーバーで、RAID 0 または RAID 1 を構成する。
- SP (識別情報の変更を含む) の構成、ネットワーク設定 (IPv4 と IPv6) と DNS の構成、ユーザーの追加、削除、変更、およびサービスプロセッサロックの設定を実行する。
- 特定の OS を最新のドライバおよびサポート済みツールとともにインストールする。
- サーバーの概要とハードウェアインベントリ情報を表示する。
- キーボード言語を設定する。
- Linux シェルの端末ウィンドウにアクセスして実行環境を使用できるようにする。
- HMP にアクセスする (Linux シェルを使用)。

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

HMP

Oracle HMP は、サーバー管理用の 2 つのコンポーネントを備えています:

- SNMP 監視エージェント
- OS 共通の CLI ツールファミリ

HMP エージェント SNMP Plugins を使用すると、SNMP を使用して、データセンターにある Oracle サーバーとサーバーモジュールを監視でき、しかも、2 つの管理ポイント、すなわちホストと Oracle ILOM に接続する必要はありません。この機能により、単一の IP アドレス (ホストの IP) を使用して、複数のサーバーおよびサーバーモジュールを監視できます。

HMP エージェント SNMP Plugins は、Oracle サーバーのホスト OS 上で動作します。SNMP Plugins は、サービスプロセッサおよびホストのストレージサブシステムと関係して、監視情報を収集します。サービスプロセッサを定期的にポーリングすることで、サーバーの現在の状態に関する情報が Hardware Management Agent によって自動的に取得されます。

Oracle Server CLI ツールを使用して、次の操作を実行できます:

- BIOS の設定、デバイスのブート順、一部の SP 設定を構成する。
- Oracle ILOM と BIOS を更新する。
- SAS ストレージデバイスのファームウェアとドライバを管理する。
- Oracle ILOM の構成を復元、設定、表示する。
- RAID コントローラ (ストレージアレイを含む) に接続されたストレージドライブ上の RAID ボリュームを表示または作成する。
- サーバーの健全性を監視する。

HMP の取得と使用に関する詳細は、Oracle HMP ドキュメントライブラリを参照してください:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 15 ページの「OSA の概要」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

ハードウェア RAID 管理ツール

サーバーに取り付けられている HBA に応じて、さまざまな RAID レベルでハードウェア RAID ボリュームを構成できます。

注-ブートドライブが RAID 構成に含まれる場合は、OS をインストールする前に RAID を構成する必要があります。

サーバー内で RAID リソースを作成および管理するには、次のリソースを使用します:

- **OSA** - OSA を使用して、RAID 0 または 1 レベルのボリュームを作成し、OS インストール用のドライブを準備できます。『サーバー OS インストール』の「RAID の構成」を参照してください。
- **Oracle HMP 2.2** - このソフトウェアの Oracle Server CLI ツールコンポーネントに含まれている `raidconfig` コマンドを使用して、サーバー上の RAID ボリュームを作成および管理できます。Oracle HMP のドキュメント (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>) を参照してください。
- **(SGX-SAS6-INT-Z HBA のみ) LSI SAS2 Integration RAID Configuration Utility** - LSI SAS2 Integrated RAID Configuration Utility に含まれる `sas2ircu` コマンドを使用して、サーバー上の RAID ボリュームを構成および管理できます。

SAS2IRCUCU ソフトウェアは、次の URL からダウンロードできます:http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-int-z.aspx

- **(SGX-SAS6-R-INT-Z のみ) LSI MegaCLI または MegaRAID Storage Manager** - LSI MegaCLI コマンド行ツールまたは MegaRAID Storage Manager グラフィカルインタフェースを使用して、SGX-SAS6-R-INT-Z 用 RAID ボリュームを構成および管理できます。

LSI MegaCLI および MegaRAID Storage Manager ソフトウェアは、次の URL からダウンロードできます:http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-int-z.aspx

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」

- 15 ページの「OSA の概要」
- 16 ページの「HMP」
- 18 ページの「複数台構成のサーバー管理ツール」

複数台構成のサーバー管理ツール

複数のシステムに対して同時に管理機能を実行する必要がある場合は、Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用します。Oracle Enterprise Manager Ops Center ソフトウェアは、Oracle で注文できます。

Oracle Enterprise Manager Ops Center の製品情報については、次の URL を参照してください: <http://www.oracle.com/in/products/enterprise-manager/enterprise-manager-opscenter-044497-en-in.html>

関連情報

- 9 ページの「共通の管理ツール」
- 11 ページの「Oracle ILOM の概要」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 15 ページの「OSA の概要」
- 16 ページの「HMP」
- 17 ページの「ハードウェア RAID 管理ツール」

管理ツールへのアクセス

次の各トピックを参照して、サーバーの各種管理ツールにアクセスしてください。

- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 27 ページの「BIOS へのアクセス」
- 34 ページの「OSA へのアクセス」
- 38 ページの「アドオンカード構成ユーティリティーにアクセスする (BIOS)」

関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

Oracle ILOM へのアクセス

Oracle ILOM は、サーバーが次のモードのとき使用できます:

- スタンバイ電源モード
- BIOS の初期設定中
- OS のブート中
- 電源投入し、ブート完了後

電源モードの詳細については、41 ページの「電源状態の管理」を参照してください。

Oracle ILOM にアクセスするには、次のいずれかの方法を使用します:

説明	リンク
Oracle ILOM Web インタフェースへのログインおよびログアウト。	20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」
Oracle ILOM Web インタフェースからのリモートコンソールへのアクセス。	21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
ネットワーク接続を介した Oracle ILOM CLI へのログインおよびログアウト。	23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」
SER MGT ポートに接続された端末デバイスから直接 Oracle ILOM CLI へログインおよびログアウト。	24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」
Oracle ILOM CLI からホストコンソール、またはホストコンソールから Oracle ILOM CLI への切り替え。	25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
KVMS の使用。	26 ページの「KVMS を有効にする」。

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

▼ Oracle ILOM Web インタフェースにログインする

- 1 サーバー SP に対するネットワークアクセス権が与えられていることを確認します。
『サーバー設置』の「使用可能な接続」を参照してください。
- 2 Web ブラウザのアドレスフィールドにサーバー SP の IP アドレスを入力します。
- 3 Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザー名は root、デフォルトのパスワードは changeme です。

- 4 「Log In」 ボタンをクリックします。
「Summary」 ページが表示されます。

The screenshot displays the Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) Summary page. The page title is "ORACLE Integrated Lights Out Manager" and it includes a warning icon and buttons for "ABOUT", "REFRESH", and "LOG OUT". The user information is "User: root Role: aacro SP Hostname: ORACLESP-1150CN2022".

The left sidebar shows a navigation menu with "Summary" selected. The main content area is divided into three sections:

- General Information:** A table listing system details.

System Type	Rack Mount
Model	Sun Netra X4270 M3
Part Number	602-C282-43
Serial Number	1150CN2022
System Identifier	-
System Firmware Version	3.1.0.18
Primary Operating System	Not Available
Host Primary MAC Address	00:21:28:a1:f4:48
ILOM Address	10.153.113.65
ILOM MAC Address	00:21:28:A1:F4:4C
- Actions:** A panel with controls for Power State (ON/OFF), Locator Indicator (OFF), Oracle System Assistant (Version: 1.0.0.74930), System Firmware Update, and Remote Console.
- Status:** A table showing overall status and subsystem details.

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 16 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 2 / 16
Power	OK	Permitted Power Consumption: 461 watts Actual Power Consumption: 180 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 27 °C Exhaust Air Temperature: 37 °C	Fans (Installed / Maximum): 10 / 10
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks (Installed / Maximum): 8 / 8
Networking	OK		Installed Ethernet NICs: 4

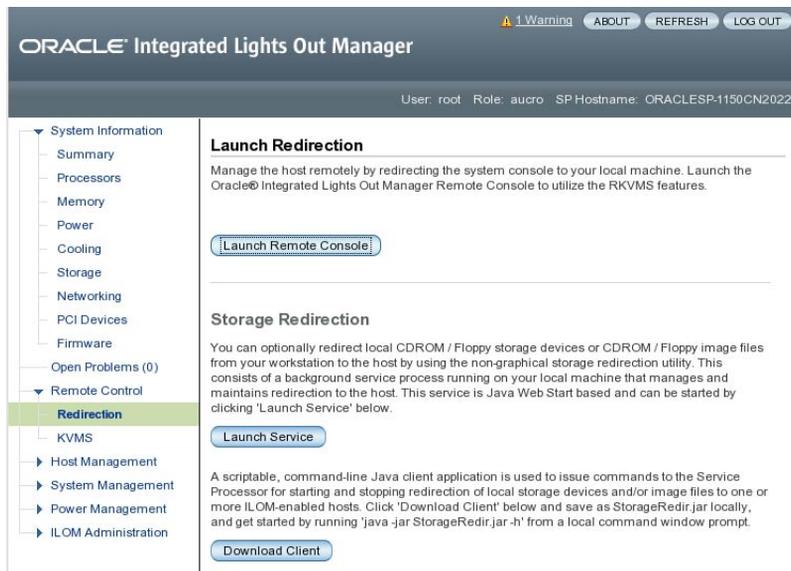
参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」
- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 26 ページの「KVMs を有効にする」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)

Oracle ILOM Web インタフェースからリモートコンソールにアクセスするには、次の手順を実行します。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」を参照してください。
- 2 「Remote Control」 > 「Redirection」 ページに移動します。
- 3 「Launch Remote Console」 ボタンをクリックします。



別のウィンドウが表示されます。「Remote Console」に表示される情報はホストの状態によって異なります。

- ホストの電源が切断されている場合 - 空白画面。
- ホストがブート中の場合 - BIOS 初期設定ウィンドウが表示されます。このとき、各種 BIOS キーを押すことによって、BIOS 設定ユーティリティを開いたり、OSA を起動したりできます。28 ページの「BIOS のキーマッピング」を参照してください。
- ホスト OS のブート後 - メッセージが表示され、インストール済み OS のユーザー資格情報を入力するように要求されます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」

- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 26 ページの「KVMS を有効にする」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)

ネットワーク経由で Oracle ILOM CLI にログインするには、次の手順を実行します。

- 1 SP が接続されているネットワークに接続されている端末デバイスにアクセスします。
- 2 SSH セッションを使用してサーバー SP にログインします。

次の構文を使用します:

```
$ ssh username@SP_IPaddress
```

ここで、*username* はユーザーアカウント、*SP_IPaddress* は SP の IP アドレスです。

注 - 上記以外の状況で、IPv6 アドレスまたは Link-Local IPv6 アドレスを入力する場合は、アドレスを角括弧で囲まないと正しく動作しません。ただし、IPv6 アドレスを指定して SSH 経由で Oracle ILOM にログインする場合は、IPv6 アドレスを角括弧で囲まないでください。

デフォルトのユーザー名は *root*、デフォルトのパスワードは *changeme* です。

CLI プロンプトが表示されます (デフォルトのプロンプトは *->* です)。SP に接続され、Oracle ILOM CLI コマンドを実行できるようになります。

次に例を示します:

```
% ssh root@10.153.113.77  
Password:
```

```
Oracle(R) Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 3.1.0.18 r71592
```

```
Copyright (c) 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
```

```
Warning: password is set to factory default.
```

```
->
```

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 26 ページの「KVMS を有効にする」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)

SER MGT ポートに直接接続しているときに Oracle ILOM CLI にログインするには、次の手順を実行します。

- 1 端末デバイスが **SER MGT** ポートに接続されていることを確認します。
SER MGT ポートのデフォルトの構成は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、ストップビット 1 に設定されています。
- 2 端末デバイスで **Enter** キーを押します。
この操作により、SP 上で Oracle ILOM との接続が確立します。
- 3 プロンプトが表示されたら、有効な ID アカウントとパスワードを入力して **Oracle ILOM CLI** にログインします。
デフォルトの Oracle ILOM アカウントは **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM のプロンプトが表示されます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 26 ページの「KVMS を有効にする」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える

Oracle ILOM CLI にログインしたら、接続をホストに切り替えることができます。

ヒント - Oracle ILOM CLI への接続とホストコンソールへのアクセスを同時に行う場合は、2つの CLI セッションを開始します。どちらか一方のセッションを使用してホストコンソールにアクセスします。もう一方のセッションを使用して、Oracle ILOM CLI にアクセスします。

1 Oracle ILOM CLI にログインします。

23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」を参照してください。

2 Oracle ILOM からホストにアクセスします。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
```

Serial console started. To stop, type ESC (

表示される情報はホストの状態によって異なります:

- ホストの電源が切断中の場合 - Serial console stopped.
- ホストの電源が切断されている場合 - 何も表示されません。
- ホストがブート中の場合 - BIOS 初期設定ウィンドウが表示されます。このとき、各種 BIOS キーを押すことによって、BIOS 設定ユーティリティを開いたり、OSA を起動したりできます。28 ページの「BIOS のキーマッピング」を参照してください。
- ホスト OS のブートが完了している場合 - メッセージが表示され、ユーザー資格情報を入力するよう要求されます。

3 Oracle ILOM に戻るには、ESC ((Esc キーに続いて \"(\") を入力します。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」
- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 26 ページの「KVMS を有効にする」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ KVMS を有効にする

Oracle ILOM リモートコンソール (Web インタフェースからアクセス可能) を使用すると、キーボード、ビデオ、マウス、ストレージのリモートリダイレクションを実行できます。

- 1 ローカルサーバーに **Java Runtime Environment (1.5 以降)** がインストールされていることを確認します。
- 2 (**Windows Internet Explorer** の場合) **Oracle ILOM** リモートコンソールを起動する前に、ローカルサーバーに **32 ビット JDK** ファイルを登録します:
 - a. **Windows Explorer** ウィンドウで、「ツール」 > 「フォルダオプション」をクリックし、「ファイルの種類」タブをクリックします。
 - b. **JNLP** ファイルを選択し、そのファイルのあるフォルダに移動して、「OK」をクリックします。
- 3 使用中のデスクトップ環境に合わせて **Oracle ILOM KVMS** を設定します:
 - a. 「**Remote Control**」 > 「**KVMS**」 ページを表示します。
 - b. ビデオリダイレクション状態が有効になっていることを確認します。
 - c. 適切なマウスモードオプション (絶対または相対) を有効にします。
最高のパフォーマンスを得るため、通常、Oracle Solaris ベースの OS では絶対モード、Linux ベースの OS では相対モードを選択します。
- 4 「**Remote Control**」 > 「**Redirection**」 > 「**Launch Remote Console**」 をクリックします。
Oracle ILOM リモートコンソールが起動します。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」
- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

▼ Oracle ILOM からログアウトする

- 次のいずれかの操作を実行します:
 - **Oracle ILOM CLI** - 次を入力します: `-> exit`
 - **Oracle ILOM Web** インタフェース - 右上隅の「Log Out」 ボタンをクリックします。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」
- 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」
- 23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」
- 24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」
- 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」
- 26 ページの「KVMS を有効にする」

BIOS へのアクセス

ホストの BIOS を構成することによって、さまざまなサーバー管理タスクを実行できます。

BIOS では、BIOS 設定ユーティリティを起動して、製品情報の表示、サーバーコンポーネントの構成、有効化、無効化、管理を行うことができます。

BIOS 設定ユーティリティは、全電力がホストに供給される短い時間に使用できません。

次の各トピックを参照して、BIOS 設定ユーティリティにアクセスし、ナビゲートしてください。

説明	リンク
BIOS のキーマッピングと BIOS 設定ユーティリティのメニューを学習します。	28 ページの「BIOS のキーマッピング」 29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」
BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。	30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」
メニューをナビゲートします。	31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」

説明	リンク
BIOS 設定ユーティリティを終了します。	33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」

関連情報

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 『サーバー OS インストール』の「BIOS の設定」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

BIOS のキーマッピング

BIOS の初期化中は、ファンクションキーを使用して次の表に示した操作を実行できません。

ファンクションキーをサポートしていない端末デバイスを使用している場合は、ファンクションキーに対応する Ctrl キーシーケンスを代わりに使用します。

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 の押下はローカル OS によってトラップされます。リモートコンソールアプリケーションの最上部に表示される「Keyboard」メニューから「F10」を選択してください。

ファンクションキー	Ctrl キーシーケンス	BIOS POST 機能	BIOS 設定ユーティリティ機能
F1	Ctrl + Q	該当なし。	設定ユーティリティの Help メニューを起動します。
F2	Ctrl + E	BIOS が POST (電源投入時自己診断) を実行している最中に BIOS 設定ユーティリティに移行します。	該当なし。
F7	Ctrl + D	該当なし。	変更内容を破棄します。
F8	Ctrl + P	BIOS の「Boot」メニューを起動します。	該当なし。
F9	Ctrl + O	OS を起動します。BIOS は、このワントタイムブート用の現在のブート優先順位リストを無視して、OSA でブートします。	「Load Optimal Values」メニューを起動します。

ファンクション キー	Ctrl キーシーケ ンス	BIOS POST 機能	BIOS 設定ユーティリティ機能
F10	Ctrl + S	該当なし。	「Save and Exit」メニューを起動し ます。
F12	Ctrl + N	ネットワークブートをアクティブ 化します。	該当なし。

関連情報

- 29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」
- 30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」
- 31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」
- 33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」

BIOS 設定ユーティリティのメニュー

次の表では、BIOS 設定ユーティリティの各トップメニューについて説明します。

メニュー	説明
Main	時刻と日付、セキュリティ設定、システムのシリアル番号、CPU と DIMM の情報など、全般的な製品情報の表示と構成を行います。
Advanced	CPU、信頼できるコンピューティング、USB、その他の情報の表示と構成を行います。サーバー SP の IP アドレスを設定します。
Boot	内部 OSA サポートの有効化または無効化、レガシー BIOS または UEFI BIOS へのブートモードの設定、ブートデバイス優先順位の構成を行います。
IO	I/O デバイスの構成設定の管理 (I/O 仮想化設定など)、Option ROM の有効化および無効化を行います。
UEFI Driver Control	すべての構成可能なデバイスの PCIe ドライバを管理します。このメニューは、UEFI ブートモードで動作しているときのみ使用可能です。
Save & Exit	変更内容を保存して終了、変更内容を破棄して終了、変更内容の破棄、デフォルトの BIOS 設定の復元を行います。

メニュー上に表示される個々のメニューまたはオプション間を移動するには、矢印キーを使用します。

関連情報

- 28 ページの「BIOS のキーマッピング」
- 30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」
- 31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」

- 33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」

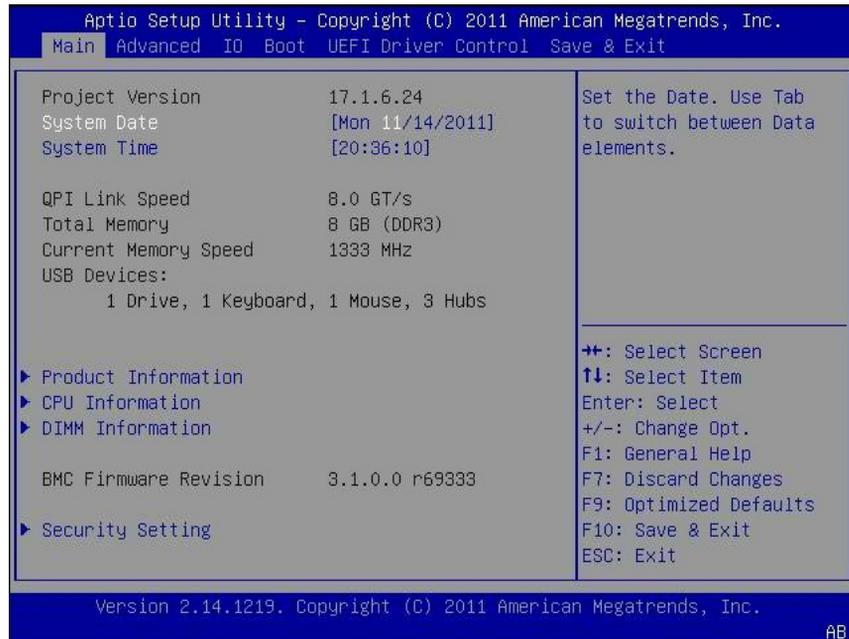
▼ BIOS 設定ユーティリティにアクセスする

注-リセットまたは電源投入中は、適切なタイミングでブートプロセスに割り込めるように、画面を注視してください。

- 1 次のいずれかのインタフェースからサーバーにアクセスします:
 - Oracle ILOM Web インタフェースにログインして、リモートコンソールにアクセスします。20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」および 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」を参照してください。
 - Oracle ILOM CLI にログインして、ホストコンソールにアクセスします。23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」および 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」を参照してください。
 - サーバーに直接接続されている USB キーボードおよび VGA モニターを使用します。(BIOS 設定ユーティリティにアクセスするのにマウスは必要ありません。)
 - サーバーのバックパネルにある SERMGT ポートを介して端末(またはコンピュータ上の端末エミュレータ)を使用します。
- 2 サーバーをリセットまたは電源投入します。
41 ページの「電源状態の管理」を参照してください。
BIOS がブートを開始し、POST を実行します。

- 3 BIOS が POST を実行している最中にプロンプトが表示されたら、F2 キー (シリアル接続の場合は Ctrl + E キー) を押します。

BIOS 設定ユーティリティの「Main」ウィンドウが表示されます。



- 4 BIOS 設定ユーティリティに移動して、管理タスクを実行します。
29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」および 31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」を参照してください。

参考 関連情報

- 28 ページの「BIOS のキーマッピング」
- 29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」
- 31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」
- 33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」

▼ BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する

- 1 BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」を参照してください。

- 2 左右の矢印キーを使用して、各プライマリメニューオプションを選択します。
各メニューオプションを選択すると、そのメニューのトップレベルウィンドウが表示されます。
シリアルデバイスを使用する場合は、28 ページの「BIOS のキーマッピング」を参照してください。
- 3 トップレベルウィンドウでオプションを選択するには、上下矢印キーを使用して表示されている各オプションに移動します。
上下の矢印キーを押すと、変更可能なオプションのみが強調表示されます。
 - 特定のオプションを選択すると、そのオプションの変更方法が画面の右側の列に表示されます。
 - フィールドがサブウィンドウへのリンクになっている場合は、サブメニューの内容の説明が右側の列に表示されます。
- 4 設定フィールドを変更するには、+(プラス)キーまたは-(マイナス)キーを押すか、Enter キーを押してポップアップメニューから目的のオプションを選択します。
- 5 Esc キーを押して、サブメニューから直前のメニューウィンドウに戻ります。
トップレベルメニューで Esc キーを押すと、「Save & Exit」メニューで「Discard Changes and Exit」オプションを選択するのと同じ結果になります。
- 6 必要に応じてパラメータを変更します。
- 7 BIOS 設定ユーティリティを終了します。
33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」を参照してください。

注 - BIOS 設定を変更してから「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Reset」を選択してリポートすると、設定の変更をしなかった場合の通常のリポートに比べて時間がかかる場合があります。この遅れは、BIOS 設定の変更内容を Oracle ILOM と同期させるために発生します。

参考 関連情報

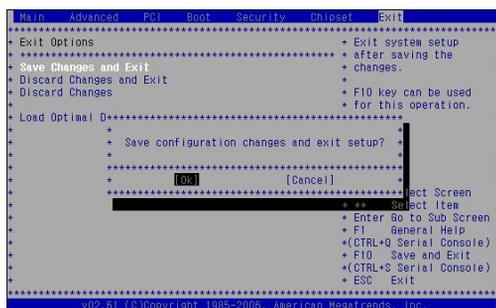
- 28 ページの「BIOS のキーマッピング」
- 29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」
- 30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」
- 33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」

▼ BIOS 設定ユーティリティを終了する

- 次のいずれかの操作を実行します:
 - F10 キーを押して、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。
 - 次の手順を実行します:

注 - Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 の押下はローカル OS によってトラップされます。リモートコンソールアプリケーションの最上部に表示される「Keyboard」メニューから「F10」を選択してください。

- a. 左右の矢印キーを使用して、トップレベルの「Save & Exit」メニューに移動します。
- b. 上下の矢印キーを使用して目的の操作を選択します。



- c. Enter キーを押してオプションを選択します。
確認ダイアログボックスが表示されます。
- d. 確認ダイアログボックスで、「OK」を選択して処理を続行し BIOS 設定ユーティリティを終了するか、「Cancel」を選択して終了プロセスを中止します。

参考 関連情報

- 28 ページの「BIOS のキーマッピング」
- 29 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニュー」
- 30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」
- 31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」

OSA へのアクセス

BIOS がブートされ、POST が実行されている短い期間に OSA にアクセスします。

OSA の概要については、15 ページの「[OSA の概要](#)」を参照してください。

次のいずれかの方法で OSA にアクセスします:

- 35 ページの「[OSA にアクセスする \(BIOS F9 キー\)](#)」
- 34 ページの「[OSA にアクセスする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)](#)」

関連情報

- 15 ページの「[OSA の概要](#)」
- 91 ページの「[OSA の有効化または無効化](#)」
- 121 ページの「[ファームウェアとソフトウェアの更新](#)」

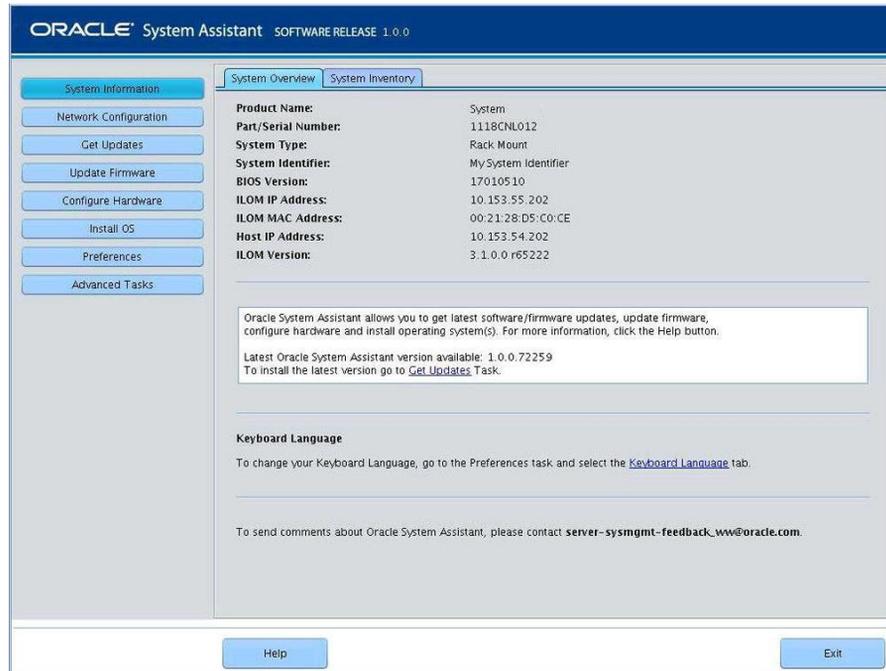
▼ OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
[20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」](#)を参照してください。
- 2 ホストの電源が切断されていることを確認します。
[41 ページの「電源状態の管理」](#)を参照してください。

注 - ホストの電源状態は「[System Information Summary](#)」ページに表示されます。

- Oracle ILOM Web インタフェースで、「Summary」 > 「Launch Oracle System Assistant」をクリックします。

Oracle ILOM が、リモートコンソールのリダイレクションを開始します。BIOS が初期化され、数分後に、リモートコンソールに「OSA System Information」ウィンドウが表示されます。



- OSA を使用して管理タスクを実行します。
- OSA からログアウトします。
37 ページの「OSA からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 35 ページの「OSA にアクセスする (BIOS F9 キー)」
- 37 ページの「OSA からログアウトする」

▼ OSA にアクセスする (BIOS F9 キー)

BIOS の初期化中に F9 ファンクションキー (Ctrl+O) を使用して OSA にアクセスするには、次の手順を実行します。

注- リセットまたは電源投入中は、適切なタイミングでブートプロセスに割り込めるように画面を注視してください。

1 次のいずれかのインタフェースからサーバーにアクセスします:

- Oracle ILOM Web インタフェースにログインして、リモートコンソールにアクセスします。20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」および 21 ページの「リモートコンソールにアクセスする (Web インタフェース)」を参照してください。
- Oracle ILOM CLI にログインして、ホストコンソールにアクセスします。23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」および 25 ページの「Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える」を参照してください。
- サーバーに直接接続されている USB キーボードおよび VGA モニターを使用します。(BIOS 設定ユーティリティーにアクセスするのにマウスは必要ありません。)
- サーバーのバックパネルにある SER MGT ポートを介して端末(またはコンピュータ上の端末エミュレータ)を使用します。

2 サーバーをリセットまたは電源投入します。

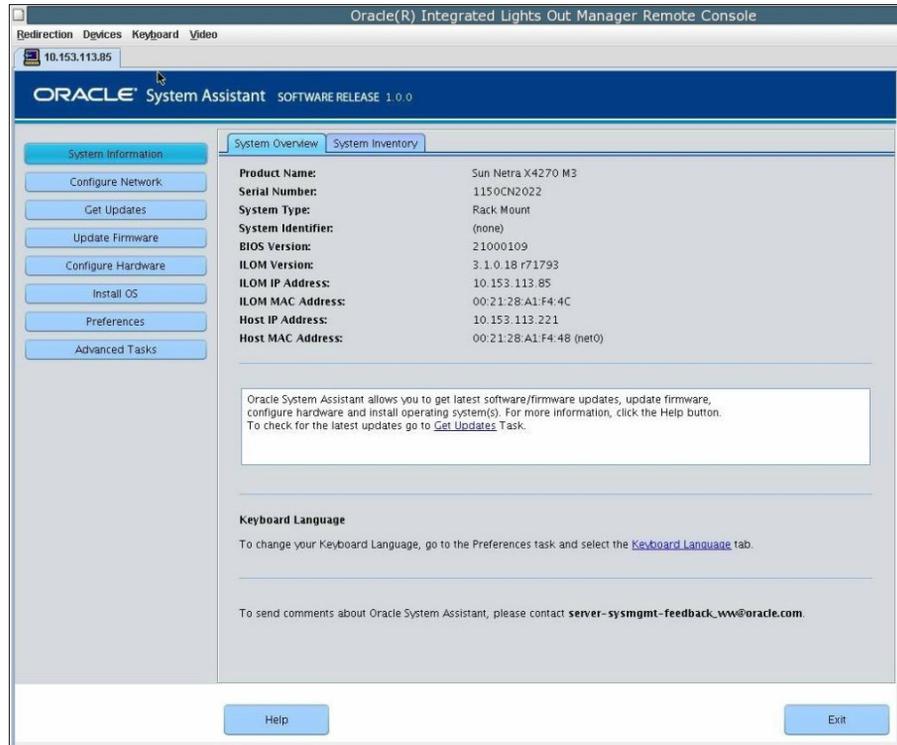
41 ページの「電源状態の管理」を参照してください。

BIOS がブートを開始し、POST を実行します。



```
Version 2.14.1219, Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 09/08/2011 12:12:06 vers: 20011300  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS PopUp (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 3 プロンプトが表示されたら、**F9** キー (または **Ctrl + O**) を押します。
数分後、「OSA System Information」ウィンドウがコンソールに表示されます。



- 4 OSA を使用して管理タスクを実行します。
- 5 OSA からログアウトします。
37 ページの「OSA からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 37 ページの「OSA からログアウトする」

▼ OSA からログアウトする

- 1 「Exit」 ボタンをクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を選択します:

- **Cancel** - 終了プロセスをキャンセルします。
- **Shut Down** - OSA を終了し、ホストをブートしません。
- **Reboot** - OSA を終了し、ホストをブートしません。

参考 関連情報

- 34 ページの「[OSA にアクセスする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)](#)」
- 35 ページの「[OSA にアクセスする \(BIOS F9 キー\)](#)」

▼ アドオンカード構成ユーティリティにアクセスする (BIOS)

アドオンカード構成ユーティリティにアクセスする必要がある場合は、次の手順を実行します。この手順は、UEFI BIOS モードを使用するように構成されたサーバーにのみ適用されます。BIOS モードに関する詳細は、『サーバー OS インストール』の「BIOS の設定」を参照してください。

注 - レガシー BIOS モードでは、I/O アダプタユーティリティを BIOS POST の実行中に起動するには、POST 中にアダプタのオプション ROM によって識別されたホットキーを使用します。ホットキーを押すと、アダプタに固有の構成ユーティリティインタフェースが表示されます。このインタフェースはベンダー固有の設計になっています。

- 1 **BIOS 設定ユーティリティのメニューを開きます。**
30 ページの「[BIOS 設定ユーティリティにアクセスする](#)」を参照してください。
- 2 **BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「UEFI Driver Control」メニューに移動します。**
制御可能なデバイスのリストが表示されます。

注 - 「UEFI Driver Control」メニューは、UEFI ブートモードが選択されているときのみ表示されます。

- 3 デバイスを選択します。
- 4 次のうち1つ以上のオプションを選択します:
 - View controller properties
 - Change controller properties
 - Save controller events
- 5 **F10 キーを押して、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。**

参考 関連情報

- [27 ページの「BIOS へのアクセス」](#)
- [13 ページの「BIOS の概要 \(管理\)」](#)
- [81 ページの「BIOS の構成」](#)

サーバーの管理

次の各トピックを参照して、電源状態と Telco アラームを管理してください:

- 41 ページの「電源状態の管理」
- 44 ページの「Telco アラーム状態を手動で変更する」

関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

電源状態の管理

注 - 電力が供給されたときサーバーが移行する電源状態を構成できます。47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」を参照してください。

次の各トピックを参照して、電源状態を理解および管理してください:

説明	リンク
さまざまな電源状態について学習します。	42 ページの「電源状態」
電源状態を変更します。	42 ページの「電源状態を管理する」
ホストをリセットします。	43 ページの「ホストをリセットする」
SP をリセットします。	43 ページの「SP をリセットする」

関連情報

- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」

電源状態

サーバーは次のいずれかの電源状態になっています:

- 電源供給なし - サーバーに電源が供給されていません。たとえば、電源コードが接続されていない場合や、主ブレーカがオフになっている場合。
- スタンバイ - 電源がサーバーに供給され、SP は動作しているが、主電源がホストに供給されていません。SP 上で動作している Oracle ILOM にアクセスできます。
- 全電源投入 - ホストに電源が投入されています。BIOS のブート中に、Oracle ILOM、OSA、および BIOS 設定ユーティリティーにアクセスできます。サーバーが OS のブートを完了したあとは、Oracle ILOM、およびホスト上で動作する OS にアクセスできます。

関連情報

- 42 ページの「電源状態を管理する」
- 43 ページの「ホストをリセットする」
- 43 ページの「SP をリセットする」

▼ 電源状態を管理する

- 電源状態を管理するには、次のいずれかの方法を使用します:
 - ローカルサーバーで操作 - サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押します。
電源ボタンを押すと、スタンバイ状態と電源投入状態の間で電源状態が切り替わります。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースから操作 - 「Host Management」 > 「Power Control」をクリックして「Select Action」リストボックスを開き、次のいずれかを選択します:
 - **Reset** - ホストをリブートします。
 - **Immediate Power Off** - ホストの電源を即座に切断します (サーバーはスタンバイモードになります)。
 - **Graceful Shutdown and Power Off** - OS を正規の手順に従ってシャットダウンしてからホストの電源を切断します (サーバーはスタンバイ状態になります)。
 - **Power On** - ホストの電源を投入します。

- **Power Cycle** – ホストの電源を切ってから入れ直します。
- **Oracle ILOM CLI** から操作:
 - **start /System - y** を入力して確認すると、OS が正規の手順に従ってシャットダウンされホストの電源が切断されます (サーバーはスタンバイ状態になります)。
 - **stop -f /System** – ホストの電源を即座に切断します (サーバーはスタンバイ状態になります)。
 - **start /System** – ホストの電源を全投入します。
 - **reset /System** – ホストをリセットします (サーバーは電源投入状態になります)。

参考 関連情報

- [42 ページの「電源状態」](#)
- [43 ページの「ホストをリセットする」](#)
- [43 ページの「SP をリセットする」](#)

▼ ホストをリセットする

- ホストをリセットするには、次のいずれかの方法を使用します:
 - ローカルサーバーで操作 – サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースから操作 – 「Management」 > 「Power Control」をクリックして「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM CLI** から操作 – 次のように入力します: 「**reset /System**」

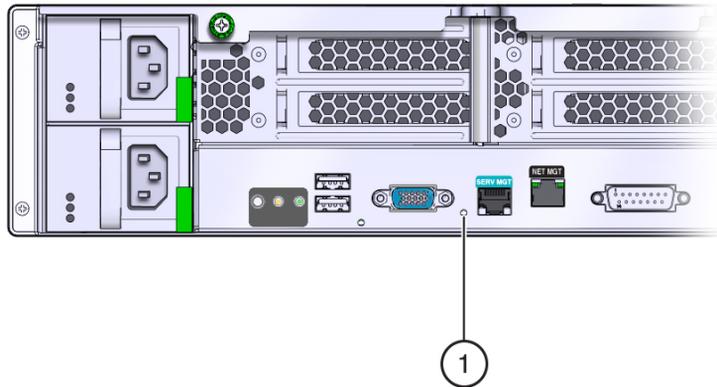
参考 関連情報

- [42 ページの「電源状態」](#)
- [42 ページの「電源状態を管理する」](#)
- [43 ページの「SP をリセットする」](#)

▼ SP をリセットする

SP をリセットする必要がある場合は、ホスト OS に影響を与えずにリセット操作できます。ただし、SP をリセットすると、現在の Oracle ILOM セッションから切断されます。

- SPをリセットするには、次のいずれかの方法を使用します:
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースから操作 - 「ILOM Administration」 > 「Maintenance」をクリックして、「Reset SP」タブを選択し、「Reset SP」をクリックします。
 - **Oracle ILOM CLI** から操作 - 次のように入力します: `reset /SP`
 - サーバーの背面から操作 - スタイラスなどの工具を用いて、SPリセットボタンを押します。リセットボタンは、サーバー背面のビデオポートとSER MGTポートの間にあるピンホールを通して押します。



番号	説明
1.	SPリセットボタンを押すためのピンホールの位置。

参考 関連情報

- 42 ページの「電源状態」
- 42 ページの「電源状態を管理する」
- 43 ページの「ホストをリセットする」

▼ Telco アラーム状態を手動で変更する

アラームがアサートされると、アラーム LED が点灯し、対応するアラーム信号が背面パネルのアラームポートに送信されます。アラームがオフになると、LED が消灯し、アラームポート信号がリセットされます。LED 情報については、『サーバーサービス』の LED の解釈に関する内容を参照してください。

アラームインジケータを管理するには、Oracle ILOM CLI/Web インタフェース、または IPMItool ユーティリティを使用します。

アラームインジケータをオンにすると、背面パネルの対応するアラームとフロントパネルのアラーム LED が有効になります。

アラームコネクタのピン配列については、『サーバー設置』の「アラームポート」を参照してください。

1 Oracle ILOM にログインする

23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」を参照してください。

2 次のいずれかのコマンドを入力します。

```
-> set /SYS/CRITICAL_ALARM value=state  
-> set /SYS/ALARM/MAJOR value=state  
-> set /SYS/ALARM/MINOR value=state  
-> set /SYS/ALARM/USER value=state
```

state は、on または off で読み替えてください。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 95 ページの「サーバーの監視」

電源投入およびブートオプションの構成

次の各トピックを参照して、電源投入およびブートオプションを構成してください:

- 47 ページの「電源投入ポリシーの構成」
- 50 ページの「ブートデバイスの選択」

関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

電源投入ポリシーの構成

次の各トピックを参照して、電源投入ポリシーを構成してください:

説明	リンク
サーバーの電源ポリシー設定について学習します。	48 ページの「電源投入ポリシー」
Oracle ILOM Web インタフェースまたは CLI を使用して電源投入ポリシーを構成します。	48 ページの「電源投入ポリシーを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」 49 ページの「電源投入ポリシーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- [41 ページの「電源状態の管理」](#)
- [50 ページの「ブートデバイスの選択」](#)

電源投入ポリシー

SP 電源投入ポリシーは、サーバーに電源を供給するときのサーバーの電源状態を決定します。

次のいずれかのポリシーを有効にするよう選択できます:

- **Auto Power-On Host On Boot** - SP によってホストに主電源が自動的に供給されません。
- **Set Host Power to Last Power State On Boot** - このオプションを有効にすると、SP によって最後の電源状態が自動的に追跡され、少なくとも 10 秒間の電源状態変更動作の後、この最後のサーバーの電源状態が復元されます。

これらのポリシーは相互に排他的です(つまり、一方のポリシーが有効になっていると、他方のポリシーは無効になります)。両方のポリシーを無効にすると、SP は、サーバーに AC または DC 電源が供給されても、ホストに電源を供給しません。

デフォルトでは、これらのポリシーは無効になっており、電源が供給されても、サーバーはホストに電源を供給せず、サーバーはスタンバイモードのままになります。[41 ページの「電源状態の管理」](#)を参照してください。

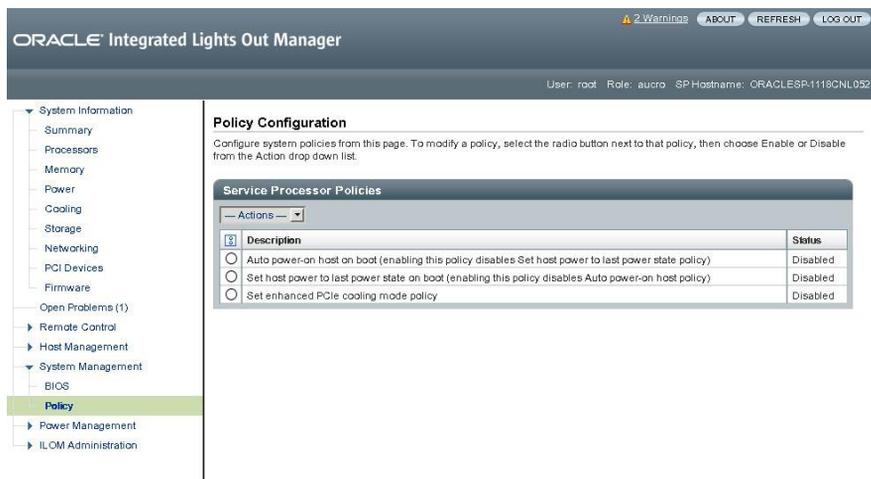
関連情報

- [48 ページの「電源投入ポリシーを構成する \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)
- [49 ページの「電源投入ポリシーの構成 \(Oracle ILOM CLI\)」](#)

▼ 電源投入ポリシーを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。
[20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」](#)を参照してください。

- 2 「System Management」 > 「Policy」を選択します。
「Policy Configuration」ページが表示されます。



- 3 構成するポリシーの横にあるラジオボタンをクリックします。
- 4 「Action」リストをクリックし、「Enable」または「Disable」を選択します。
選択内容の確認を求めるプロンプトが表示されます。
- 5 「OK」をクリックして設定を確定します。

参考 関連情報

- 48 ページの「電源投入ポリシー」
- 49 ページの「電源投入ポリシーの構成 (Oracle ILOM CLI)」

▼ 電源投入ポリシーの構成 (Oracle ILOM CLI)

- 1 Oracle ILOM CLI にログインします。
23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」を参照してください。
- 2 現在のポリシーを表示します。
次に例を示します:
-> `show /SP/policy`

/SP/policy
Targets:

```
Properties:  
ENHANCED_PCIE_COOLING_MODE = disabled  
HOST_AUTO_POWER_ON = disabled  
HOST_LAST_POWER_STATE = disabled
```

- 3 ポリシーを有効または無効にするには、次の形式でコマンドを入力します:

```
-> set /SP/policy policy_name=enabled|disabled
```

次に例を示します:

```
-> set /SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON=enabled
```

- 4 ポリシーを確認します:

```
-> show /SP/policy
```

```
/SP/policy  
Targets:  
  
Properties:  
ENHANCED_PCIE_COOLING_MODE = disabled  
HOST_AUTO_POWER_ON = enabled  
HOST_LAST_POWER_STATE = disabled
```

参考 関連情報

- [48 ページの「電源投入ポリシー」](#)
- [48 ページの「電源投入ポリシーを構成する \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

ブートデバイスの選択

ブートデバイスを選択するには、次のいずれかのタスクを実行します:

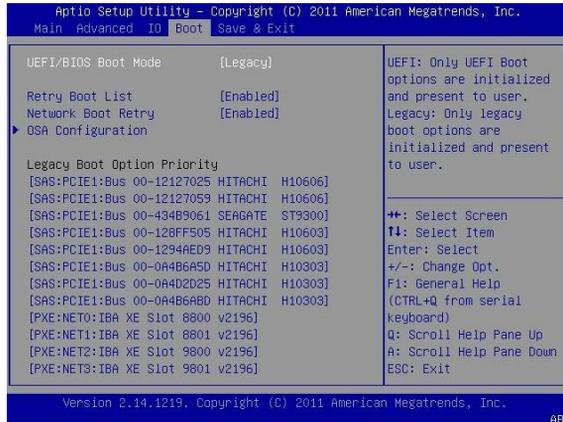
- [51 ページの「ブートデバイスの優先順位を構成する \(BIOS\)」](#)
- [51 ページの「一時ブートデバイスを選択する \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)
- [52 ページの「一時ブートデバイスを選択する \(BIOS\)」](#)

関連情報

- [47 ページの「電源投入ポリシーの構成」](#)
- [13 ページの「BIOS の概要 \(管理\)」](#)

▼ ブートデバイスの優先順位を構成する (BIOS)

- 1 BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
27 ページの「BIOS へのアクセス」を参照してください。
- 2 右向き矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。
31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」を参照してください。



- 3 上下矢印キーを使用してブートデバイスの優先順位を構成します。
- 4 変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。
33 ページの「BIOS 設定ユーティリティを終了する」を参照してください。

参考 関連情報

- 51 ページの「一時ブートデバイスを選択する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 52 ページの「一時ブートデバイスを選択する (BIOS)」

▼ 一時ブートデバイスを選択する (Oracle ILOM Web インタフェース)

次の手順に従って一時ブートデバイスを設定した場合、そのブートデバイス割り当ては、現在のサーバーブートでのみ有効になります。BIOS 設定ユーティリティで指定した永続ブートデバイスは、一時ブートデバイスからブートしたあとに有効になります。

- 1 Web インタフェースを使用して **Oracle ILOM** にアクセスします。
20 ページの「[Oracle ILOM Web インタフェースにログインする](#)」を参照してください。
- 2 「**Host Management**」 > 「**Host Control**」 ウィンドウを開きます。
- 3 「**Next Boot Device**」 メニューからブートデバイスを選択します。
- 4 「**Save**」 をクリックします。
- 5 「**System Information**」 > 「**Summary**」 ページに移動して、「**Power State Turn On**」 をクリックします。
選択したデバイスからホストがブートします。

参考 関連情報

- 51 ページの「[ブートデバイスの優先順位を構成する \(BIOS\)](#)」
- 52 ページの「[一時ブートデバイスを選択する \(BIOS\)](#)」

▼ 一時ブートデバイスを選択する (BIOS)

次の手順に従って一時ブートデバイスを設定した場合、そのブートデバイス割り当ては、現在のサーバーブートでのみ有効になります。BIOS 設定ユーティリティーで指定した永続ブートデバイスは、一時ブートデバイスからブートしたあとに有効になります。

注-リセットまたは電源投入中は、適切なタイミングでブートプロセスに割り込めるように、画面を注視してください。

- 1 サーバーをリセットまたは電源投入します。
41 ページの「[電源状態の管理](#)」を参照してください。
- 2 BIOS が POST を実行している最中にプロンプトが表示されたら、**F8** キー (シリアル接続の場合は **Ctrl + P** キー) を押します。
「Please Select Boot Device」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 このダイアログで、選択した OS および BIOS モードに応じたブートデバイスオプションを選択し、**Enter** キーを押します。
上下の矢印キーを使用してブートデバイスを選択します。
サーバーが UEFI ブートとレガシー BIOS のどちらのモードで構成されているかに応じて、そのモードで機能するデバイスだけがダイアログに表示されます。たとえ

ば、UEFI ブートモードを選択した場合は、UEFI ブートデバイスだけが「Please Select Boot Device」ダイアログに表示されます。13 ページの「[BIOS の概要 \(管理\)](#)」を参照してください。

- 4 **F10** キーを押して変更内容を保存し、「**BIOS Boot**」メニューを終了します。選択したデバイスからホストがブートします。

参考 関連情報

- 51 ページの「[ブートデバイスの優先順位を構成する \(BIOS\)](#)」
- 51 ページの「[一時ブートデバイスを選択する \(Oracle ILOM Web インタフェース\)](#)」

Oracle ILOM の構成

SP および Oracle ILOM を構成する際には、さまざまなツールを使用できます。使用するツールに応じて、次のうち必要なトピックを参照してください:

注- これらのトピックでは、Oracle ILOM の一般的な構成タスクを説明していません。Oracle ILOM のより包括的な管理タスクについては、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントを参照してください。7 ページの「[関連ドキュメント](#)」を参照してください。

- 55 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM CLI)」
- 56 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを回復する」
- 57 ページの「Oracle ILOM の構成 (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 70 ページの「SP および Oracle ILOM の構成 (BIOS)」
- 72 ページの「SP と Oracle ILOM を設定する (OSA)」
- 78 ページの「強化された PCIe 冷却モードポリシーを構成する (Oracle ILOM CLI)」

関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

▼ Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM CLI)

サーバーの出荷時の構成には root アカウントが含まれており、Oracle ILOM に最初にログインする際には、このアカウントを使用します。このアカウントは、Oracle ILOM のすべての機能、関数、コマンドに対する管理者権限 (読み書き権限) を保有し

ています。デフォルトのパスワードは `changeme` です。無許可のアクセスを防ぐため、このパスワードを変更してください。

- 1 Oracle ILOM CLI にログインします。

23 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (リモート)」を参照してください。

- 2 次のように入力します。

```
-> set /SP/users/root password
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
```

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 56 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを回復する」

▼ Oracle ILOM の root パスワードを回復する

- 1 SER MGT ポート経由で、Oracle ILOM に対するローカルのシリアル接続を確立します。
24 ページの「Oracle ILOM CLI にログインする (ローカル)」を参照してください。

- 2 デフォルトのユーザーアカウントを使用して Oracle ILOM にログインします。
次に例を示します:

```
login: default
Press and release the physical presence button
Press return when this is completed...
```

- 3 サーバーの前面にあるロケータボタンを押します。
この操作により、サーバーに物理的にアクセスできる場所にいることが証明されます。

注 - この操作は、Oracle ILOM 物理的プレゼンスチェックが有効になっているとき (デフォルトでは有効) には必須となります。57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」を参照してください。

- 4 端末デバイスで **Return** キーを押します。
- 5 デフォルトユーザーアカウントのパスワードを入力します:
`defaultpassword`

- 6 root アカウントを作成し直します。
Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 55 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM CLI)」

Oracle ILOM の構成 (Oracle ILOM Web インタフェース)

次の各トピックを参照して、Oracle ILOM Web インタフェースを使用した一般的な SP 構成タスクを実行してください。

注-SP の構成に関する包括的な情報、および同等のタスクを Oracle ILOM CLI を使用して実行する方法については、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントを参照してください。7 ページの「関連ドキュメント」を参照してください。

- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」

関連情報

- 70 ページの「SP および Oracle ILOM の構成 (BIOS)」
- 72 ページの「SP と Oracle ILOM を設定する (OSA)」

▼ (オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する

このタスクでは、このサーバー SP に一意の識別情報を割り当てます。このタスクは必須ではありませんが、このタスクを実行することにより、使用環境内での各 SP の識別が容易になります。

このタスクを実行するには、Oracle ILOM 管理者 (a) 権限が必要です。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。
34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」を参照してください。
- 2 「ILOM Administration」 > 「Identification」 ページに移動します。
「Identification Information」 ページが表示されます。

- 3 各フィールドに識別情報を入力します。
各フィールドの特性は次のとおりです：
 - **Hostname** – ホスト名は 60 文字以内で指定します。先頭には英字を使用します。また、使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダースコアのみです。
 - **System Identifier** – システム識別子は標準キーボードの任意のキー (引用符を除く) を用いて 60 文字以内で指定します。
 - **System Contact** – システムの連絡先には、標準のキーボードの任意のキー (引用符を除く) を使用したテキスト文字列を指定します。
 - **System Location** – システムの場所には、標準のキーボードの任意のキー (引用符を除く) を使用したテキスト文字列を使用できます。
 - **Physical Presence Check** – セキュリティー上の理由で、このオプションはデフォルトで有効になっています。このオプションが有効になっている場合は、Oracle ILOM パスワードを回復するとき、またはその他のセキュリティー関連操作を実行するときに、サーバーのロケータボタンを押す必要があります。
- 4 「Save」をクリックします。

- 5 次に実行するタスクを確認します:
 - 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
 - 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

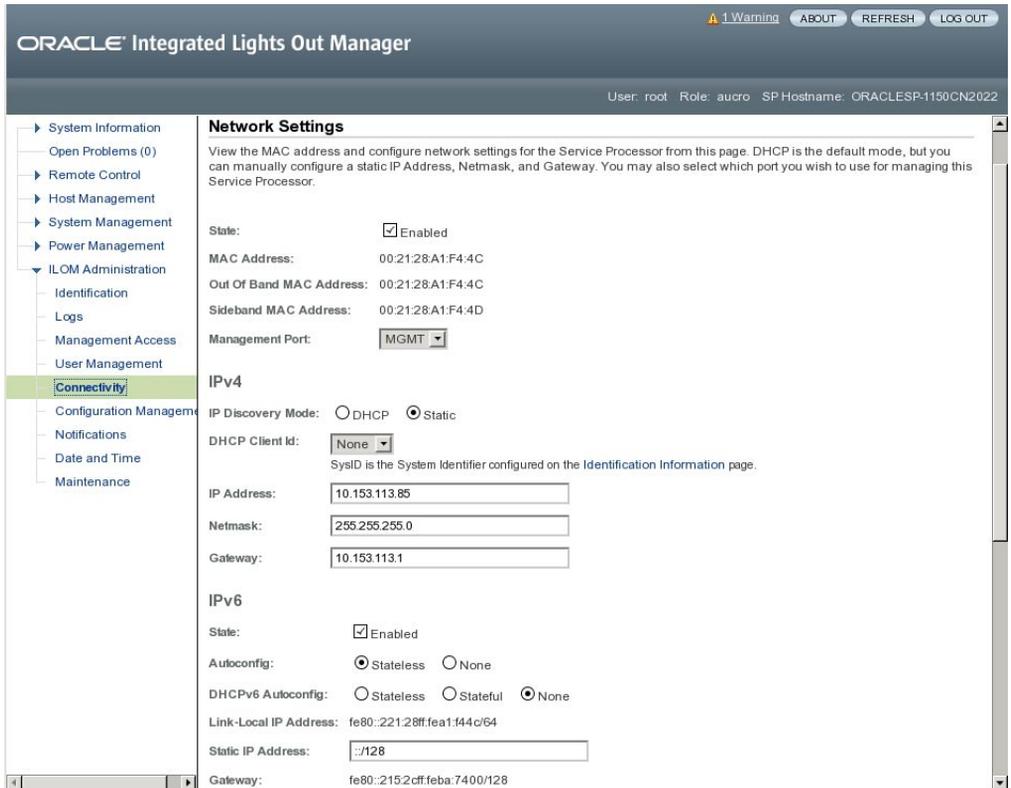
参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

▼ NET MGT ポートを構成する

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにアクセスします。
34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」を参照してください。
- 2 「ILOM Administration」 > 「Connectivity」ページに移動します。
「Identification Information」ページが表示されます。

- 3 「Network」タブを選択します。
「Network Settings」ページが表示されます。



- 4 使用中のネットワーク環境に合わせて設定を構成します。
- 5 「Save」をクリックします。
- 6 次に実行するタスクを確認します:
 - 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
 - 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」

- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

▼ SP SER MGT ポートを構成する

SER MGT ポート設定を構成するには、次の手順を実行します。

デフォルトの設定は次のとおりです：

- シリアルポートは SP に接続される
- 9600 ボー
- フロー制御なし

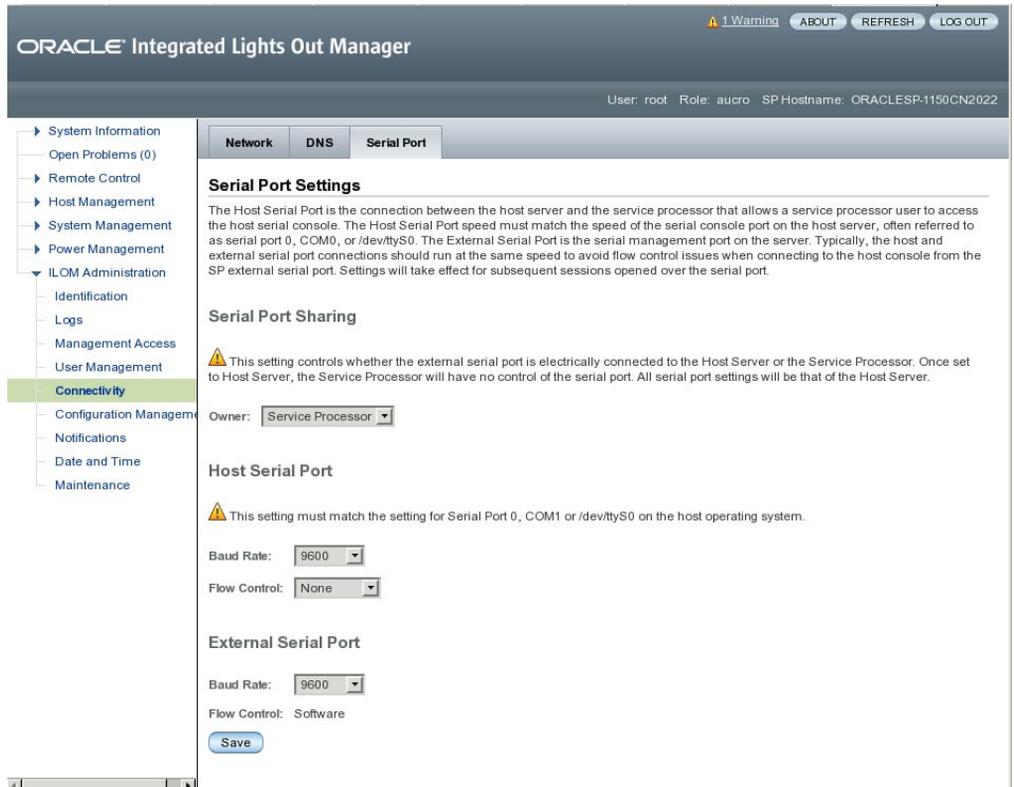
注-デフォルト値はほとんどの環境でそのまま使用できます。デフォルト値が使用環境に適合している場合は、この手順を実行しないでください。

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにアクセスします。

34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」を参照してください。

- 2 「**ILOM Administration**」 > 「**Connectivity**」 ページに移動します。
「**Identification Information**」 ページが表示されます。

- 3 「Serial Port」タブを選択します。
「Serial Port Settings」ページが表示されます。



- 4 使用環境に合わせてポート設定を構成します。
- 5 「Save」をクリックします。
- 6 次に実行するタスクを確認します:
 - 63 ページの「SPの日付と時間を構成する」
 - 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」

- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

▼ SP の日付と時間を構成する

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。

34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」を参照してください。

- 2 「ILOM Administration」 > 「Date and Time」 ページに移動します。
「Identification Information」 ページが表示されます。

ORACLE Integrated Lights Out Manager

User: root Role: auro SP Hostname: ORACLESPP-1150CN2022

System Information
Open Problems (0)
Remote Control
Host Management
System Management
Power Management
ILOM Administration
Identification
Logs
Management Access
User Management
Connectivity
Configuration Management
Notifications
Date and Time
Maintenance

Clock Timezone

Clock Settings

To set the Service Processor clock manually, type the date in the format mm/dd/yyyy, then select the hour and minute. To synchronize the Service Processor clock with an NTP server, select the Enable check box, then type the addresses of the NTP servers to use. To modify the timezone, click the Timezone tab.

Uptime: 2 days, 20:23:47

Date: 03/09/2012

Time: 16:46 GMT

Synchronize Time Using NTP: Enabled

Server 1: 0.0.0.0

Server 2: 0.0.0.0

Save

- 3 日付と時間を設定するか、NTP サーバーを使用するように SP を構成します。
- 4 「Save」 をクリックします。
- 5 「Timezone」 タブを選択します。
「Timezone Settings」 ページが表示されます。
- 6 ドロップダウンリストから、使用するタイムゾーンを選択します。
- 7 「Save」 をクリックします。

8 次に実行するタスクを確認します:

- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

▼ Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)

サーバーの出荷時の構成には root アカウントが含まれており、Oracle ILOM に最初にログインするには、このアカウントを使用します。このアカウントは、Oracle ILOM のすべての機能、関数、コマンドに対する管理者権限 (読み書き権限) を保有しています。デフォルトのパスワードは changeme です。無許可のアクセスを防ぐため、このパスワードを変更してください。

1 Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。

34 ページの「OSA にアクセスする (Oracle ILOM Web インタフェース)」を参照してください。

2 「ILOM Administration」 > 「User Management」 ページに移動します。

「Active Sessions」 ページが表示されます。

3 「User Accounts」 タブを選択します。

「User Account Settings」 ページが表示されます。

- 「Users」パネルで、**root** アカウントを選択します。
次に例を示します:



	Name	Role
<input checked="" type="radio"/>	root	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)
<input type="radio"/>	matt	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only, Service (aucros)

- 「Edit」ボタンをクリックします。
別のウィンドウが表示されます。



Oracle® Integrated Lights Out Manager

The password must be 8 to 16 characters, which are case sensitive. Use any characters except a colon and space. Note that Roles cannot be modified for the special user 'root'.

Properties

User Name: root

New Password:

Confirm New Password:

Roles

Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)

Save Close

- 新しい**root** アカウントのパスワード、およびパスワードの確認を入力します。
- 「Save」をクリックします。

8 次に実行するタスクを確認します:

- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

▼ ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)

Oracle ILOM に対するアクセスを管理する必要がある場合は、次の手順を実行して、最大 10 のユーザーアカウントを作成し、それぞれに固有のロールを割り当てます。

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにアクセスします。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。
- 2 「**ILOM Administration**」 > 「**User Management**」 ページに移動します。
「Active Sessions」 ページが表示されます。
- 3 「**User Accounts**」 タブを選択します。
「User Account Settings」 ページが表示されます。

- 4 「Users」パネルで、「Add」ボタンをクリックします。
別のウィンドウが表示されます。

Oracle® Integrated Lights Out Manager

The user name must be 4 to 16 characters and must start with an alphabetic character and use no spaces. The password must be 8 to 16 characters, which are case sensitive. Use any characters except a colon and space.

Properties

User Name:

New Password:

Confirm New Password:

Roles

Advanced Roles ▾

Admin (a) User Management (u)

Console (c) Reset and Host Control (r)

Read Only (o) Service (s)

Save Close

- 5 ユーザー名、パスワード、パスワードの確認を入力します。
- 6 このユーザーの適切なロールを選択します。
68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」を参照してください。
- 7 「Save」をクリックします。
ウィンドウが閉じられ、「Users」パネルのユーザーリストにユーザーが追加されます。
- 8 次のタスクに進みます。
次のタスクを確認します:
 - SP 構成の追加 - Oracle ILOM 3.1 のドキュメントを参照してください。
 - 27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」

Oracle ILOM ユーザーロール

表 1 Oracle ILOM ユーザーアカウントロール

ロール	CLI 表記法	権限
Admin	a	Oracle ILOM 構成変数の状態の表示と変更を行う権限がユーザーに付与されます (Admin ユーザーが、User Management、Reset and Host Control、および Console の各ロールも保有していなければならないタスクは実行できません)。
User Management	u	ユーザーアカウントの作成と削除、ユーザーパスワードの変更、ほかのユーザーに割り当てられたロールの変更、およびデフォルトのユーザーアカウントの物理的アクセス要件の有効化または無効化を行う権限がユーザーに付与されます。このロールには、LDAP、LDAP/SSL、RADIUS、および Active Directory を設定する権限も含まれています。
Console	c	Oracle ILOM リモートコンソールと SP コンソールへのアクセス、および Oracle ILOM コンソール構成変数の状態の表示と変更を行う権限がユーザーに付与されます。
Reset and Host Control	r	電源管理、リセット、ホットプラグ、コンポーネントの有効化と無効化、および障害管理など、サーバーを操作する権限がユーザーに付与されます。
Read Only	o	ILOM 構成変数の状態を表示する権限がユーザーに付与されますが、変更することはできません。このロールが割り当てられたユーザーは、自分のユーザーアカウントのパスワードおよびセッションタイムアウト設定を変更することもできます。
Service	s	オンサイトサービスが必要な場合に、Oracle のサービスエンジニアを補助するための権限がユーザーに付与されます。

次の表に、作成するユーザーアカウントに割り当てることができる Oracle ILOM の定義済みユーザーの一覧を示します。

表2 Oracle ILOM の定義済みユーザーロール

定義済みユーザーロール	与えられる権限
Administrator	Administrator ユーザーロールでは、次の事前構成されたユーザーロールによって与えられるすべての権限を同時に付与または取り消すことができます: <ul style="list-style-type: none"> ■ Admin (a) ■ User Management (u) ■ Console (c) ■ Reset and Host Control (r) ■ Read-Only (o)
Operator	Operator ユーザーロールでは、次の事前構成されたユーザーロールによって与えられるすべての権限を同時に付与または取り消すことができます: <ul style="list-style-type: none"> ■ Console (c) ■ Reset and Host Control (r) ■ Read-Only (o)
Advanced Roles	Advanced Roles ユーザーロールでは、次の事前構成されたロールによって与えられる権限の一部またはすべてを同時に付与または取り消すことができます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Admin (a) ■ User Management (u) ■ Console (c) ■ Reset and Host Control (r) ■ Services (r)

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 57 ページの「(オプション) Oracle ILOM 識別情報を構成する」
- 59 ページの「NET MGT ポートを構成する」
- 61 ページの「SP SER MGT ポートを構成する」
- 63 ページの「SP の日付と時間を構成する」
- 64 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 66 ページの「ユーザーアカウントを構成する (Oracle ILOM Web インタフェース)」

SP および Oracle ILOM の構成 (BIOS)

次の各トピックで、BIOS から SP および Oracle ILOM を構成する方法を説明します。

- 70 ページの「SP ネットワークを構成する (BIOS)」
- 71 ページの「日付と時間を構成する (BIOS)」

関連情報

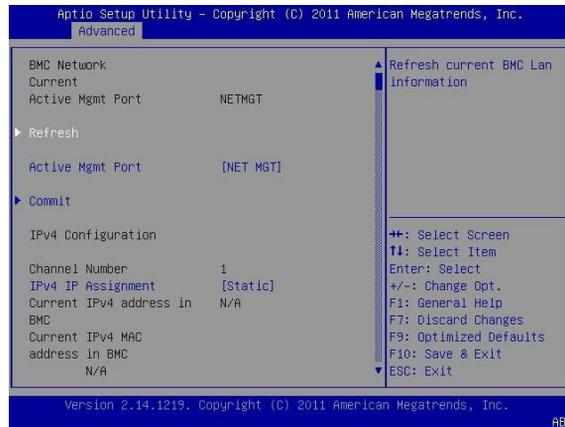
- 57 ページの「Oracle ILOM の構成 (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 72 ページの「SP と Oracle ILOM を設定する (OSA)」

▼ SP ネットワークを構成する (BIOS)

BIOS 設定ユーティリティを使用して SP Ethernet ポート (NET MGT) のネットワーク設定を構成するには、次の手順を実行します。

- 1 **BIOS 設定ユーティリティ** にアクセスします。
30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」を参照してください。
- 2 矢印キーを使用して「**Advanced**」メニューに移動します。
31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」を参照してください。
- 3 「**BMC Network**」を選択します。
「BMC Network Configuration」ウィンドウが表示されます。

BMC ウィンドウでは、SPNET MGT ポート構成にアクセスできます。



- 4 使用ネットワーク環境に合わせて、「IPv4 Assignment」または「IPv6 Assignment」の構成設定を変更します。
- 5 「Refresh」を選択します。
構成設定が最新の値で更新されます。
- 6 「Commit」を選択します。
- 7 F10 キーを押して、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

参考 関連情報

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 27 ページの「BIOS へのアクセス」
- 71 ページの「日付と時間を構成する (BIOS)」

▼ 日付と時間を構成する (BIOS)

- 1 BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」を参照してください。
- 2 矢印キーを使用して「System Date」を強調表示し、Return キーを押します。
- 3 Tab キーを使用して日付を設定し、Return キーを押します。
- 4 矢印キーを使用して「System Time」を強調表示します。

- 5 **Tab** キーを使用して時間を設定し、**Return** キーを押します。
- 6 **F10** キーを押して、変更内容を保存し、**BIOS** 設定ユーティリティを終了します。

参考 関連情報

- 13 ページの「[BIOS の概要 \(管理\)](#)」
- 27 ページの「[BIOS へのアクセス](#)」
- 70 ページの「[SP ネットワークを構成する \(BIOS\)](#)」

SP と Oracle ILOM を設定する (OSA)

次の各トピックを参照して、OSA を使用して一般的な SP 構成タスクを実行してください。

- 72 ページの「[SP ネットワークを構成する \(OSA\)](#)」
- 75 ページの「[SP クロックを設定する \(OSA\)](#)」
- 75 ページの「[Oracle ILOM の root パスワードを変更する \(OSA\)](#)」
- 76 ページの「[Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する \(OSA\)](#)」

関連情報

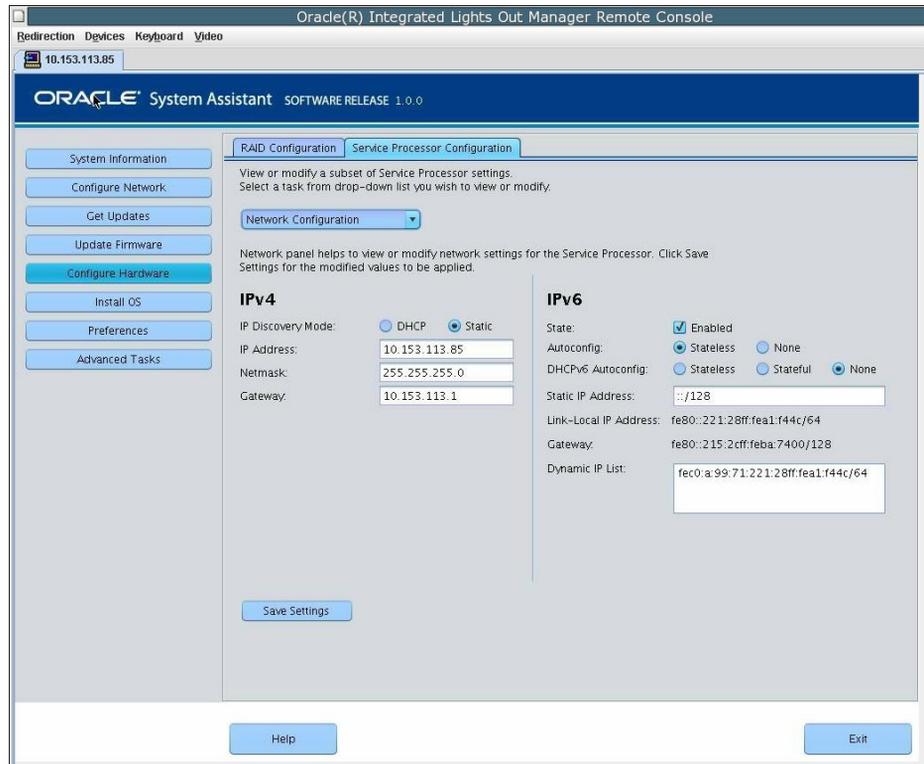
- 57 ページの「[Oracle ILOM の構成 \(Oracle ILOM Web インタフェース\)](#)」
- 70 ページの「[SP および Oracle ILOM の構成 \(BIOS\)](#)」

▼ SP ネットワークを構成する (OSA)

OSA を使用して SP NET MGT ポートのネットワーク設定を構成するには、次の手順を実行します。

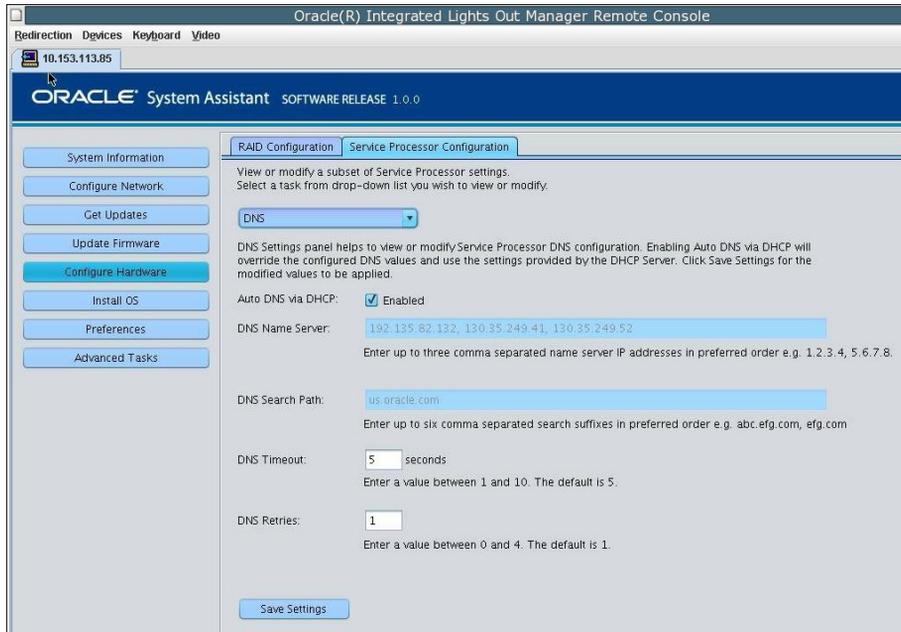
- 1 **OSA** にアクセスします。
34 ページの「[OSA へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 「**Configure Hardware**」をクリックします。
- 3 「**Service Processor Configuration**」タブを選択します。

- ドロップダウンリストから「**Network Configuration**」を選択します。
「SP Network Configuration」ウィンドウが表示されます。



- 使用環境に合わせて、**SP**ネットワーク設定を構成します。
- 「**Save Settings**」をクリックします。

- 7 ドロップダウンリストから「DNS」を選択します。
「SP DNS」ウィンドウが表示されます。



- 8 使用環境に合わせて、DNS 設定を構成します。
- 9 「Save Settings」をクリックします。
- 10 次のタスクに進みます。
次のタスクを確認します:

- 75 ページの「SP クロックを設定する (OSA)」
- 37 ページの「OSA からログアウトする」

参考 関連情報

- 15 ページの「OSA の概要」
- 34 ページの「OSA へのアクセス」
- 75 ページの「SP クロックを設定する (OSA)」
- 75 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (OSA)」
- 76 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する (OSA)」

▼ SP クロックを設定する (OSA)

SP クロックを手動で設定するか、NTP サーバーを使用するように設定するには、次の手順を実行します。

- 1 OSA にアクセスします。
34 ページの「OSA へのアクセス」を参照してください。
- 2 「Configure Hardware」 ボタンをクリックします。
- 3 ドロップダウンリストから「Clock Settings」 を選択します。
- 4 設定を構成します。
- 5 「Save Settings」 をクリックします。
- 6 次のタスクに進みます。
次のタスクを確認します:
 - 75 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (OSA)」
 - 37 ページの「OSA からログアウトする」

参考 関連情報

- 15 ページの「OSA の概要」
- 34 ページの「OSA へのアクセス」
- 72 ページの「SP ネットワークを構成する (OSA)」
- 75 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (OSA)」
- 76 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する (OSA)」

▼ Oracle ILOM の root パスワードを変更する (OSA)

- 1 OSA にアクセスします。
34 ページの「OSA へのアクセス」を参照してください。
- 2 「Configure Hardware」 ボタンをクリックします。
- 3 「Service Processor Configuration」 タブを選択します。
- 4 ドロップダウンリストから「User Accounts」 を選択します。
- 5 ユーザーのリストから root ユーザーを選択します。

- 6 「**Modify User**」 ボタンをクリックします。
「Modify User」 ウィンドウが表示されます。
- 7 新しい**root** パスワードを入力し、パスワードを確認します。
- 8 「**Modify User**」 ボタンをクリックします。
- 9 次のタスクに進みます。
次のタスクを確認します:
 - [76 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する \(OSA\)」](#)
 - [37 ページの「OSA からログアウトする」](#)

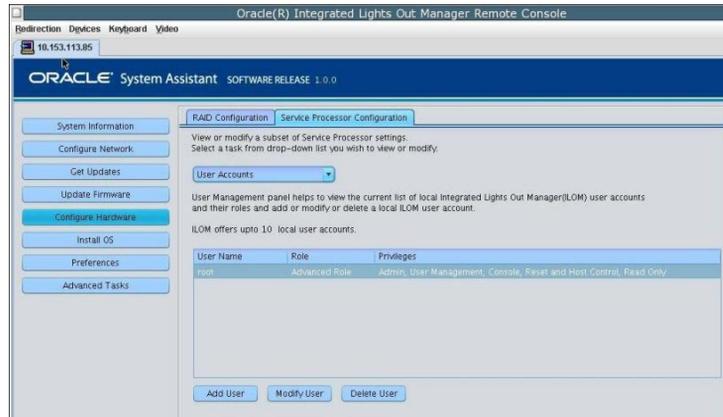
参考 **関連情報**

- [15 ページの「OSA の概要」](#)
- [34 ページの「OSA へのアクセス」](#)
- [72 ページの「SP ネットワークを構成する \(OSA\)」](#)
- [75 ページの「SP クロックを設定する \(OSA\)」](#)
- [76 ページの「Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する \(OSA\)」](#)

▼ **Oracle ILOM ユーザーアカウントを構成する (OSA)**

- 1 **OSA** にアクセスします。
[34 ページの「OSA へのアクセス」](#) を参照してください。
- 2 「**Configure Hardware**」 ボタンをクリックします。
- 3 「**Service Processor Configuration**」 タブをクリックします。

- ドロップダウンリストから「User Accounts」を選択します。
「User Account」ウィンドウが表示されます。



- 「Add User」ボタンをクリックします。
「Add User」ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows the "Add User" dialog box. The title bar reads "Add User". The main content area contains the following text:

The user name must be 4 to 16 characters and may only contain alphanumeric, hyphen, and underscore characters. User name must begin with a letter. The password must be 8 to 16 characters, which are case sensitive. Use any characters except a colon and space.

Note: The username 'root' can only be created with a role 'Advanced Roles' and privileges Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only.

User Name:

Role Privileges:

Role:

<input type="checkbox"/> Admin	<input type="checkbox"/> User Management
<input checked="" type="checkbox"/> Console	<input checked="" type="checkbox"/> Reset and Host Control
<input checked="" type="checkbox"/> Read Only	<input type="checkbox"/> Service

Password:

Confirm Password:

- 「Add User」ボタンをクリックします。

- 7 ユーザー名、ロール、パスワードを割り当てます。
68 ページの「Oracle ILOM ユーザーロール」を参照してください。
- 8 「Add User」ボタンをクリックします。
- 9 OSA からログアウトします。
37 ページの「OSA からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 15 ページの「OSA の概要」
- 34 ページの「OSA へのアクセス」
- 72 ページの「SP ネットワークを構成する (OSA)」
- 75 ページの「SP クロックを設定する (OSA)」
- 75 ページの「Oracle ILOM の root パスワードを変更する (OSA)」

▼ 強化された PCIe 冷却モードポリシーを構成する (Oracle ILOM CLI)

デフォルトでは、強化された PCIe 冷却モードポリシーは無効になっています。このポリシーを有効にすると、シャーシ出力温度センサーのしきい値が低くなります。このポリシー設定は、特定の PCIe カードで求められるより低い動作温度要件を満たすために用意されています。

シャーシを通常的环境中で求められるよりも低い温度に維持することが望ましいときにこのポリシーを有効にしてください。

- 1 Oracle ILOM CLI にログインします。
19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」を参照してください。

- 2 現在のポリシーを表示します。

次に例を示します:

```
-> show /SP/policy
```

```
/SP/policy
Targets:

Properties:
  ENHANCED_PCIE_COOLING_MODE = disabled
  HOST_AUTO_POWER_ON = disabled
  HOST_LAST_POWER_STATE = disabled
```

- 3 ポリシーを有効または無効にするには、次の形式を使用します:

```
-> set /SP/policy policy_name=enabled|disabled
```

次に例を示します:

```
-> set /SP/policy ENHANCED_PCIE_COOLING_MODE=enabled
```

4 ポリシーを確認します。

```
-> show /SP/policy
```

```
/SP/policy
```

```
Targets:
```

```
Properties:
```

```
ENHANCED_PCIE_COOLING_MODE = enabled
```

```
HOST_AUTO_POWER_ON = disabled
```

```
HOST_LAST_POWER_STATE = disabled
```

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」

BIOS の構成

次の各トピックを参照して、BIOS を構成してください:

- 81 ページの「BIOS のデフォルト設定へのリセット」
- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当ての構成」
- 87 ページの「I/O リソースの割り当ての構成」
- 88 ページの「BIOS でのデバイスの構成」

関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

BIOS のデフォルト設定へのリセット

BIOS をデフォルト設定に戻す場合は、使用予定のツールに応じて、次のどちらかの手順を実行します:

- 82 ページの「BIOS をデフォルト設定にリセットする (Oracle ILOM)」
- 83 ページの「BIOS をデフォルト設定にリセットする (BIOS)」

関連情報

- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当ての構成」
- 87 ページの「I/O リソースの割り当ての構成」
- 88 ページの「BIOS でのデバイスの構成」

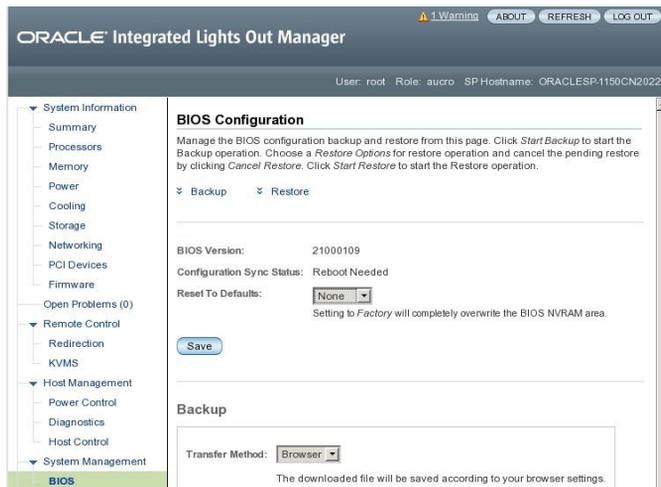
▼ BIOS をデフォルト設定にリセットする (Oracle ILOM)

Oracle ILOM Web インタフェースを使用して BIOS 設定を出荷時のデフォルト設定に戻すには、次の手順を実行します。



注意 - BIOS を出荷時のデフォルト設定値にリセットすると、カスタムの BIOS 設定はすべて上書きされます。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。
- 2 「System Management」 > 「BIOS」 ウィンドウにアクセスします。
次に例を示します:



- 3 「Reset To Defaults」で「Factory」を選択します。
- 4 「Save」をクリックします。
- 5 ホストをリセットします。
43 ページの「ホストをリセットする」を参照してください。

参考 関連情報

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 43 ページの「ホストをリセットする」
- 83 ページの「BIOS をデフォルト設定にリセットする (BIOS)」

▼ BIOS をデフォルト設定にリセットする (BIOS)

BIOS 設定ユーティリティーを使用して BIOS の設定を出荷時のデフォルト設定に戻すには、次の手順を実行します。



注意 - BIOS を出荷時のデフォルト設定値にリセットすると、カスタムの BIOS 設定はすべて上書きされます。

- 1 **BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**
27 ページの「BIOS へのアクセス」を参照してください。
- 2 **F9 キーを押すと、出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。**
メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「Cancel」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
- 3 **「OK」を選択して変更内容を確認し、Enter キーを押します。**
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、ウィンドウの最初の値がカーソルで強調表示されます。
- 4 **変更内容を保存して BIOS セットアップユーティリティーを終了するには、F10 キーを押します。**

参考 関連情報

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 27 ページの「BIOS へのアクセス」
- 43 ページの「ホストをリセットする」
- 82 ページの「BIOS をデフォルト設定にリセットする (Oracle ILOM)」

レガシー Option ROM の割り当ての構成

次の各トピックを参照して、必要なレガシー Option ROM のみを読み込むように BIOS を構成してください。そうすることによって、サーバーのブート時間が最短になり、使用可能な Option ROM アドレス空間を使い果たす可能性が軽減されます。

- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当て」
- 85 ページの「Option ROM の設定を有効または無効にする」

関連情報

- 81 ページの「BIOS のデフォルト設定へのリセット」
- 87 ページの「I/O リソースの割り当ての構成」
- 88 ページの「BIOS でのデバイスの構成」

レガシー Option ROM の割り当て

レガシー BIOS モードでは、レガシー Option ROM の割り当てが PC アーキテクチャーによる制約を受けます。

注 - UEFI Option ROM (UEFI ドライバと呼ばれることが多い) はこの制約を受けません。

サーバー BIOS は、128K バイトのアドレス空間をレガシー Option ROM に割り当てます。このアドレス空間は、オンボードデバイスと PCIe アドインカードによって共有されます。この固定アドレス空間の制約は、PC のアーキテクチャーによるものであり、BIOS 自体によるものではありません。BIOS が POST を完了すると、各デバイスの Option ROM が共有アドレス空間に読み込まれます。

PCIe カードを装着すると、使用可能なアドレス空間を使い果たしてしまう可能性があります。アドレス空間がなくなると、Oracle ILOM は次のエラーメッセージを表示してログに記録します:

Option ROM Space Exhausted - Device XXX Disabled

このメッセージは、1 つ以上のデバイスが Option ROM を読み込めないことを示しています。

デフォルトでは、すべてのオンボードのレガシー Option ROM が BIOS で有効になっています。ただし、関連付けられているデバイスからのブートをサポートするため、または他の一部のブート時間機能を提供するために必要にならないかぎり、これらの Option ROM のほとんどは無効にできます。

たとえば、1つ以上のネットワークポートからブートすることがないかぎり、オンボードのネットワークポートで Option ROM を読み込む必要はありません。その場合でも、残りのポートの Option ROM は無効にできます。

サーバーのブート時間を最短にし、使用可能な Option ROM のアドレス空間を使い果たす可能性を軽減するには、ブートデバイス以外のすべてのデバイスの Option ROM を無効にします。

ブートデバイスの Option ROM のみを有効にしてください。2つ以上のブートデバイスの Option ROM を有効にすると、Option ROM 空間が不足する状況が発生する場合があります。ブートデバイスとして使用しないすべてのデバイスを無効にしたあとも Option ROM 空間が不足する状況が発生する場合は、無効にする Option ROM を追加します。状況によっては、プライマリブートデバイスを除くすべてのデバイスの Option ROM を無効にしなければならない場合があります。

関連情報

- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 85 ページの「Option ROM の設定を有効または無効にする」

▼ Option ROM の設定を有効または無効にする

- 1 BIOS 設定ユーティリティのメニューを開きます。
30 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする」を参照してください。
- 2 BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「IO」メニューに移動します。
31 ページの「BIOS 設定ユーティリティのメニューに移動する」を参照してください。



- 3 「IO」メニューで、**Option ROM** 設定を有効または無効にする内蔵デバイスまたはアドインカードのスロットを選択します。
そのデバイスまたはアドインカードスロットの Option ROM ウィンドウが表示されま
す。



- 4 次のどちらかを実行します:
- 「Enabled」を選択して**Option ROM** 設定を有効にする。
 - 「Disabled」を選択して**Option ROM** 設定を無効にする。

注-ブートデバイスとして使用しないすべてのデバイスの Option ROM を無効にしてください。

- 5 **F10** キーを押して変更内容を保存し、**BIOS** 設定ユーティリティを終了します。
33 ページの「**BIOS** 設定ユーティリティを終了する」を参照してください。

参考 関連情報

- 13 ページの「**BIOS** の概要 (管理)」
- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当て」

I/O リソースの割り当ての構成

次の各トピックを参照して、I/O リソースの割り当てを構成してください。サーバーによって PCI リソースの不足を知らせるエラーが表示されたら、割り当てを構成する必要があります。

- 87 ページの「I/O リソースの割り当て」
- 88 ページの「I/O リソースの割り当てを有効または無効にする」

関連情報

- 81 ページの「BIOS のデフォルト設定へのリセット」
- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当ての構成」
- 88 ページの「BIOS でのデバイスの構成」

I/O リソースの割り当て

サーバーには 64K バイトの I/O アドレス空間が用意されています。サーバーでサポートされる PCIe デバイスの数が増えると、一部のデバイスで I/O リソースが不足する可能性があります。

ブート可能デバイスとして使用する予定のないカードに対して I/O リソースの割り当てを無効にするほうが確実です (通常は必要はありません)。

BIOS 設定ユーティリティを介して、各 PCIe スロットの I/O リソースの割り当てを有効または無効にすることができます。このオプションのデフォルトは有効になっています。有効になっている場合、I/O リソースは通常どおりデバイスに割り当てられます。無効になっていると、I/O リソースはデバイスに割り当てられません。

1 枚以上の Sun Quad Port Gigabit Ethernet PCIe Low Profile アダプタカードがサーバーに取り付けられている場合、レガシー I/O アドレス空間のリソース不足状態が BIOS によって検出されることがあります。次のようなエラーがログに記録されることがよくあります:

```
6491 Tue Dec 7 14:19:57 2010 IPMI Log minor
ID = a5a9 : 12/07/2010 : 14:19:57 : System Firmware Error :
sensor number
= 0x00 : PCI resource exhaustion : Bus 147 Device 0 Func 0
6490 Tue Dec 7 14:19:57 2010 IPMI Log minor
ID = a5a8 : 12/07/2010 : 14:19:57 : System Firmware Error :
sensor number
= 0x00 : PCI resource exhaustion : Bus 147 Device 0 Func 1
```

PCI リソース不足状態が発生しないようにするには、Quad Gigabit Ethernet カードをブート可能デバイスとして使用する場合を除き、同カードが取り付けられているすべてのスロットで I/O リソースの割り当てを無効にします。

Quad Gigabit Ethernet カードをブート可能デバイスとして使用する場合に、その特定のデバイスでPCIリソース不足イベントが発生する場合は、サーバーに取り付けられている別のカードのI/O割り当てを無効にする必要があります。

関連情報

- 13 ページの「[BIOS の概要 \(管理\)](#)」
- 88 ページの「[I/O リソースの割り当てを有効または無効にする](#)」

▼ I/O リソースの割り当てを有効または無効にする

I/O 仮想化設定など、I/O デバイスの構成設定を管理するには、次の手順を実行します。

- 1 BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
[30 ページの「BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする](#)」を参照してください。
- 2 BIOS 設定ユーティリティーで、矢印キーを使用して「IO」メニューに移動します。
- 3 次のどちらかを実行します:
 - 「Enabled」を選択して、I/O カードの I/O リソースの割り当てを有効にする。
 - 「Disabled」を選択してアドインカードを無効にする。
- 4 F10 キーを押して、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了します。
[33 ページの「BIOS 設定ユーティリティーを終了する](#)」を参照してください。

参考 関連情報

- 13 ページの「[BIOS の概要 \(管理\)](#)」
- 87 ページの「[I/O リソースの割り当て](#)」
- 27 ページの「[BIOS へのアクセス](#)」

BIOSでのデバイスの構成

アドインカードおよびI/Oアダプタ用の構成ユーティリティーとの対話方法は、BIOSがレガシーBIOSとUEFIブートのどちらのモード向けに構成されているかによって異なります。

必要に応じて次のトピックを参照して、BIOSでデバイスを構成してください:

- [89 ページの「デバイス構成を変更する \(UEFI ブートモード\)」](#)

- 90 ページの「デバイス構成を変更する (レガシーブートモード)」

関連情報

- 81 ページの「BIOS のデフォルト設定へのリセット」
- 84 ページの「レガシー Option ROM の割り当ての構成」
- 87 ページの「I/O リソースの割り当ての構成」

▼ デバイス構成を変更する (UEFI ブートモード)

BIOS 設定ユーティリティの「IO」メニューを介して、アドインカードの構成ウィンドウを開きます。たとえば、Oracle Sun Storage 6Gb/s PCIe RAID HBA がサーバーに取り付けられている場合、BIOS UEFI の「Driver Control」メニューで特定のメニュー項目を選択すると、該当する HBA の構成ユーティリティが表示されます。

- 1 BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
27 ページの「BIOS へのアクセス」を参照してください。
- 2 矢印キーを使用して UEFI の「Driver Control」メニューに移動します。
制御可能なデバイスのリストが表示されます。
- 3 デバイスを選択します。
- 4 提示されたいずれかのオプションを選択して、次のいずれかの操作を実行します:
 - View controller properties
 - Change controller properties
 - Save controller events
- 5 F10 キーを押して、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了します。

参考 関連情報

- 『サーバー OS インストール』の「BIOS の設定」
- 13 ページの「BIOS の概要 (管理)」
- 27 ページの「BIOS へのアクセス」
- 90 ページの「デバイス構成を変更する (レガシーブートモード)」

▼ デバイス構成を変更する(レガシーブートモード)

BIOS POST の進行中に I/O アダプタユーティリティを起動するには、POST 中にアダプタの Option ROM によって識別されるホットキーを使用します。ホットキーを押すと、アダプタに固有の構成ユーティリティインタフェースが表示されます。

- 1 次のいずれかのインタフェースからサーバーにアクセスします:
 - Oracle ILOM Web インタフェースにログインして、リモートコンソールにアクセスします。20 ページの「[Oracle ILOM Web インタフェースにログインする](#)」および 21 ページの「[リモートコンソールにアクセスする \(Web インタフェース\)](#)」を参照してください。
 - Oracle ILOM CLI にログインして、ホストコンソールにアクセスします。23 ページの「[Oracle ILOM CLI にログインする \(リモート\)](#)」および 25 ページの「[Oracle ILOM CLI とホストコンソールを切り替える](#)」を参照してください。
- 2 サーバーをリセットまたは電源投入します。
41 ページの「[電源状態の管理](#)」を参照してください。
BIOS がブートを開始し、POST を実行します。
- 3 プロンプトが表示されたら、構成するデバイスのホットキーを入力します。
デバイスの構成ユーティリティが表示されます。

注- このユーティリティのインタフェースは、ベンダー固有の設計になっています。

- 4 起動されたユーティリティに従ってデバイスを構成します。

参考 関連情報

- 『サーバー OS インストール』の「[BIOS の設定](#)」
- 13 ページの「[BIOS の概要 \(管理\)](#)」
- 27 ページの「[BIOS へのアクセス](#)」
- 89 ページの「[デバイス構成を変更する \(UEFI ブートモード\)](#)」

OSAの有効化または無効化

OSAは、サーバーハードウェアをローカルまたはリモートで構成および更新したり、サポートされているOSをインストールしたりする際に役立つインストール済みのプロビジョニングツールです。

OSAはサーバーの設定に便利なツールですが、セキュリティへの悪影響が受け入れられない場合や、こうしたツールが必要ない場合は、OSAを無効にしてもかまいません。

セキュリティへの悪影響に関する詳細は、『Netra Server X3-2 (旧 Sun Netra X4270 M3 サーバー) セキュリティガイド』を参照してください。

次の各トピックを参照して、OSAを有効または無効にしてください:

- [91 ページの「OSAを無効にする」](#)
- [92 ページの「OSAを有効にする」](#)

関連情報

- [9 ページの「管理リソースの理解」](#)
- [19 ページの「管理ツールへのアクセス」](#)
- [41 ページの「サーバーの管理」](#)
- [47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」](#)
- [55 ページの「Oracle ILOMの構成」](#)
- [81 ページの「BIOSの構成」](#)
- [95 ページの「サーバーの監視」](#)
- [121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」](#)

▼ OSAを無効にする

OSAは無効にすることができます(無効にすると該当するUSBデバイスがオフライン状態になります)。これにより、デバイス内のファイルが誤って消去されたり上書きされたりすることがなくなります。

OSAを無効にすると、そのデバイスはブート不可能となり、OSAツール、ドライバ、ファイルにアクセスできなくなります。

- 1 ブートして **OSA** にアクセスします。
34 ページの「[OSA へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 「**Preferences task**」 ボタンをクリックします。
- 3 「**Disable Oracle System Assistant**」 タブをクリックします。
- 4 「**Disable Oracle System Assistant**」 ボタンをクリックします。
- 5 **OSA** からログアウトします。
37 ページの「[OSA からログアウトする](#)」を参照してください。

参考 **関連情報**

- 34 ページの「[OSA へのアクセス](#)」
- 92 ページの「[OSA を有効にする](#)」

▼ **OSA** を有効にする

- 1 サーバーの **BIOS** 設定ユーティリティーにアクセスします。
27 ページの「[BIOS へのアクセス](#)」を参照してください。
- 2 「**Boot**」メニューに移動します。



- 3 「OSA Configuration」 オプションを選択します。
「OSA Configuration」 ウィンドウが表示されます。



- 4 **Enter** キーを押してオプションを選択します。
- 5 **F10** キーを押して、変更内容を保存し、**BIOS 設定ユーティリティ**を終了します。

参考 関連情報

- [27 ページの「BIOS へのアクセス」](#)
- [91 ページの「OSA を無効にする」](#)

サーバーの監視

次の各トピックを参照してサーバーを監視してください:

- 95 ページの「サーバーのシリアル番号を取得する」
- 96 ページの「サーバーの位置を特定する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 97 ページの「サーバー情報の取得」
- 100 ページの「サーバーの健全性の監視 (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 103 ページの「SNMP トラップの理解」

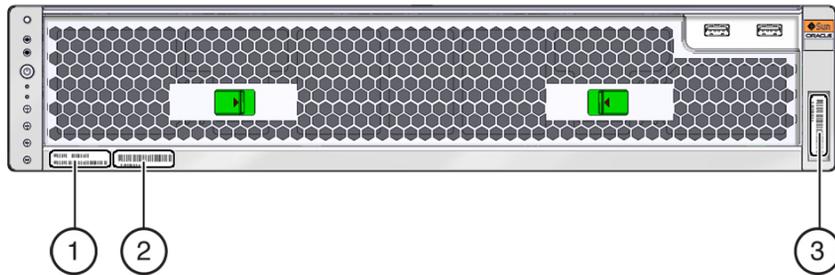
関連情報

- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」
- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 121 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」

▼ サーバーのシリアル番号を取得する

- サーバーの ID とシリアル番号を取得するには、次のいずれかの方法を使用します:
 - 管理ツールを使用する - サーバーのシリアル番号は、Oracle ILOM、BIOS 設定ユーティリティ、または OSA を使用して取得できます。97 ページの「サーバー情報の取得」を参照してください。
 - サーバーのシリアル番号を確認する - サーバーのシリアル番号はサーバー正面の左下隅に貼付されているラベルに記載されています。
 - バーコードリーダーを使用する - サーバーのシリアル番号バーコードは、サーバー正面の左下隅にあるラベルに表示されています。

- **RFID リーダーを使用する** – サーバーの正面ベゼルに貼付されている RFID タグを、9 フィート以内の距離から携帯型あるいは据え置き型の RFID リーダーで読み込みます。RFID タグのシリアル番号はサーバーのシリアル番号とは異なりますが、アセット一覧表に使用できます。



番号	説明
1	システムのシリアル番号
2	ホスト NET ポートの開始 MAC アドレス
3	RFID タグ

参考 関連情報

- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 9 ページの「共通の管理ツール」

▼ サーバーの位置を特定する (Oracle ILOM Web インタフェース)

サーバーのロケータ LED を点灯させてサーバーの物理的位置を特定するには、次の手順を実行します。

- 1 **Oracle ILOM Web インタフェースにログイン**します。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。
- 2 「System Information」 > 「Summary」 ページを表示します。
- 3 「Actions」 パネルの「Locator Indicator」 ボタンをクリックします。

- 4 プロンプトが表示されたら、「Yes」をクリックして操作を確定します。
サーバーのロケータ LED が点灯して、サーバーを物理的に特定できるようになります。
- 5 次のいずれかの操作を実行してロケータ LED を消灯します:
 - サーバーで操作 - ロケータ LED ボタンを押します。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースから操作 - 「Summary」 ページで、「Locator Indicator」 ボタンをクリックします。

参考 関連情報

- 『サーバー設置』の「フロントパネルコンポーネント」
- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」

サーバー情報の取得

サーバー情報(シリアル番号、ネットワークアドレス、日付と時間、インストール済みコンポーネントなど)は、さまざまなツールを使用して取得できます。

使用するツールに応じて次のいずれかのトピックを参照して、サーバー情報を取得してください:

注-サーバー情報は、OS から取得することもできます。詳細は、使用中の OS のドキュメントを参照してください。

- 97 ページの「サーバー情報を表示する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (BIOS)」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (OSA)」

関連情報

- 100 ページの「サーバーの健全性の監視 (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 103 ページの「SNMP トラップの理解」

▼ サーバー情報を表示する (Oracle ILOM Web インタフェース)

Oracle ILOM Web インタフェースを使用すると、コンポーネントの状態、インベントリ、健全性などのサーバー情報に容易にアクセスできます。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。
- 2 「Summary」ページを表示します。

The screenshot displays the Oracle ILOM Web interface. The main content area is titled "Summary" and contains three panels:

- General Information:** A table listing system details.

System Type	Rack Mount
Model	Sun Netra X4270 M3
Part Number	602-C282-43
Serial Number	1150CN2022
System Identifier	-
System Firmware Version	31.0.18
Primary Operating System	Not Available
Host Primary MAC Address	00:21:28:a1:f4:48
ILOM Address	10.153.113.85
ILOM MAC Address	00:21:28:A1:F4:4C
- Actions:** A panel with control buttons for Power State (ON/OFF), Locator Indicator (OFF), Oracle System Assistant (Launch), System Firmware Update (Update), and Remote Console (Launch).
- Status:** A table showing overall status and component details.

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	OK	Processor Architecture: x86 64 bit Processor Summary: Two Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	OK	Installed RAM Size: 16 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 2 / 16
Power	OK	Permitted Power Consumption: 461 watts Actual Power Consumption: 180 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	OK	Inlet Air Temperature: 27 °C Exhaust Air Temperature: 37 °C	Fans (Installed / Maximum): 10 / 10
Storage	Not Available	Installed Disk Size: Not Available Disk Controllers: Not Available	Internal Disks (Installed / Maximum): 8 / 8
Networking	OK		Installed Ethernet NICs: 4

「Summary」ページに表示される情報は次のとおりです:

- 「General Information」パネル - シリアル番号、ファームウェアのバージョン、プライマリ OS、ホスト MAC アドレス、SPIP アドレスと MAC アドレスなどの全般的な情報が表示されます。
 - 「Actions」パネル - ホストの電源状態が表示されます。
 - 「Status」パネル - 各サーバーコンポーネントのステータスが表示されます。
- 3 「System Information」にリストされている個々のコンポーネントをクリックして、詳細な情報を表示します。
 - 4 Oracle ILOM からログアウトします。
27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (BIOS)」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (OSA)」

▼ サーバー情報を表示する (BIOS)

- 1 BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
27 ページの「BIOS へのアクセス」を参照してください。
- 2 「Main」ウィンドウで、システム情報を確認します:
- 3 必要に応じて、上下の矢印キーを使用して、追加情報ウィンドウを選択します。
次の項目に関する追加情報を表示できます:
 - 製品
 - CPU
 - DIMM
 - セキュリティー設定
- 4 BIOS 設定ユーティリティーを終了します。
33 ページの「BIOS 設定ユーティリティーを終了する」を参照してください。

参考 関連情報

- 27 ページの「BIOS へのアクセス」
- 97 ページの「サーバー情報を表示する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (OSA)」

▼ サーバー情報を表示する (OSA)

OSA を使用すると、サーバー情報とシステムインベントリを表示できます。

- 1 OSA にアクセスします。
34 ページの「OSA へのアクセス」を参照してください。
- 2 「System Information」 > 「System Overview」タブを表示します。
- 3 「System Inventory」タブをクリックしてから「Expand All」をクリックして、サーバーインベントリを表示します。

- 4 OSA からログアウトします。
37 ページの「OSA からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 34 ページの「OSA へのアクセス」
- 97 ページの「サーバー情報を表示する (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 99 ページの「サーバー情報を表示する (BIOS)」

サーバーの健全性の監視 (Oracle ILOM Web インタフェース)

次の各トピックを参照して、Oracle ILOM Web インタフェースからサーバーを監視してください:

注 - Oracle ILOM CLI からサーバーを監視することもできます。詳細は、Oracle ILOM 3.1 のドキュメントを参照してください。

- 100 ページの「問題がないかチェックする」
- 101 ページの「イベントログと監査ログのエントリを管理する」
- 102 ページの「消費電力を表示する」

関連情報

- 97 ページの「サーバー情報の取得」
- 103 ページの「SNMP トラップの理解」

▼ 問題がないかチェックする

サーバーに潜在的な問題がないかチェックするには、次の手順を実行します。問題が見つかった場合は、『サーバーサービス』に記載されている問題点の検出と修正措置の実行および手動で問題点を解決するための情報を参照してください。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。
- 2 「System Information」 > 「Summary」 ページでサーバーのステータスをチェックします。

- 3 「System Information」 > 「Open Problems」をクリックして、未解決の問題がないかチェックします。
未解決の問題がある場合は、その問題の詳細が「Open Problems」表に表示されます。

注-Oracle ILOM は、サーバーコンポーネントが交換または修理されたことを検出すると、「Open Problems」表に表示されたメッセージを自動的に消去します。

- 4 必要なら、メッセージ内の URL リンクをクリックして、問題点に関する詳細な情報を表示するか、推奨されている修正措置を確認します。
- 5 Oracle ILOM からログアウトします。
27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 101 ページの「イベントログと監査ログのエントリを管理する」
- 102 ページの「消費電力を表示する」
- 『サーバーサービス』の「障害の検出と管理」

▼ イベントログと監査ログのエントリを管理する

これらのログを管理するには、次の手順を実行します:

- イベントログ-コンポーネントの着脱やコンポーネントの障害など、管理対象デバイスに関する情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージを追跡します。このログに記録されるイベントのプロパティには、イベントの重大度、イベントのプロバイダ(クラス)、イベントがログに記録された日時などがあります。
- 監査ログ-ユーザーのログインおよびログアウト、構成の変更、パスワードの変更など、インタフェース関連のユーザーアクションを追跡します。ユーザーアクションが監視されるユーザーインタフェースとしては、Oracle ILOM Web インタフェース、CLI、障害管理シェル(キャプティブシェル)、制限付きシェル、および SNMP/IPMI クライアントインタフェースがあります。

注-Oracle ILOM は、ログエントリのタイムスタンプを取得するとき、UTC/GMT タイムゾーンをデフォルトで使用します。

- 1 Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
20 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースにログインする」を参照してください。

- 2 「**ILOM Administration**」 > 「**Logs**」 ページを表示します。
イベントログが表示されます。
- 3 必要に応じて、表示されるイベントタイプをフィルタリングしたり、行やページの表示プロパティを調整してください。
ログ表の最上部にあるコントロールを使用します。
- 4 必要に応じて、表に表示されているすべてのログエントリを消去します。
「Clear Log」をクリックします。
確認ダイアログが表示されます。確認ダイアログで、「OK」をクリックするとエントリが消去されます。
- 5 「**Audit**」タブをクリックして監査ログを表示します。
監査ログが表示されます。
- 6 **Oracle ILOM** からログアウトします。
27 ページの「[Oracle ILOM からログアウトする](#)」を参照してください。

参考 **関連情報**

- 19 ページの「[Oracle ILOM へのアクセス](#)」
- 100 ページの「[問題がないかチェックする](#)」
- 102 ページの「[消費電力を表示する](#)」
- 『サーバーサービス』の「[障害の検出と管理](#)」

▼ 消費電力を表示する

サーバー消費電力の最新データ、統計データ、および履歴データを表示するには、次の手順を実行します。各サーバーコンポーネントの電力割り当て要件を表示することもできます。

- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。
20 ページの「[Oracle ILOM Web インタフェースにログインする](#)」を参照してください。
- 2 「**Power Management**」 > 「**Consumption**」 ページを表示します。
サーバー消費電力が、「Actual Power」および「Peak Permitted Power」プロパティにワット数で表示されます。
消費電力メトリックは、サーバーが現在消費している入力電力のワット数を特定します。ピーク時許容消費電力メトリックは、サーバーが消費できる最大電力ワット数を特定します。

- 3 各コンポーネントの電力割り当て要件を確認します。
- 4 「Power Management」 > 「Statistics」 ページを表示します。
電力使用量統計情報が、15 秒、30 秒、および 60 秒間隔で表示されます。
コンポーネント単位の電力マップに、各サーバーコンポーネントの電力ワット数割り当てが表示されます。
- 5 「Power Management」 > 「History」 ページを表示します。
最小使用電力、平均使用電力、最大使用電力の履歴が表示されます。
- 6 Oracle ILOM からログアウトします。
27 ページの「Oracle ILOM からログアウトする」を参照してください。

参考 関連情報

- 19 ページの「Oracle ILOM へのアクセス」
- 100 ページの「問題がないかチェックする」
- 101 ページの「イベントログと監査ログのエントリを管理する」
- 『サーバーサービス』の「障害の検出と管理」

SNMP トラップの理解

ハードウェア障害の発生時に SNMP トラップを生成するように Oracle ILOM を構成できます。

SNMP アラートルールの送信先を構成してこれらのトラップの受信を開始する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 SNMP、IPMI、CIM、WS-MAN プロトコル管理リファレンスガイド』を参照してください:

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

次の各トピックで、このサーバーで生成される SNMP トラップの一覧を示します。

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティプレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティ関連イベントトラップ」

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>
- 97 ページの「サーバー情報の取得」
- 100 ページの「サーバーの健全性の監視 (Oracle ILOM Web インタフェース)」

汎用のホストイベントトラップ

説明 - センサーがエラーを検出しました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapComponentError		
Assert	メジャー	/SYS/HOST_ERR
sunHwTrapComponentError		
Deassert	メジャー	/SYS/HOST_ERR

関連情報

- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティプレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」

環境関連イベントトラップ

説明 - 温度センサーは、測定値が致命的なしきい値設定の上限を上回ったか、致命的なしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded		
Lower fatal threshold exceeded	クリティカル	/SYS/PS0/T_OUT/SYS/PS1/T_OUT /SYS/MB/T_IN_ZONE0 /SYS/MB/T_OUT_ZONE0 /SYS/MB/T_IN_ZONE1 /SYS/MB/T_OUT_ZONE1 /SYS/MB/T_IN_ZONE2 /SYS/MB/T_OUT_ZONE2
sunHwTrapTempFatalThresholdDeasserted		
Lower fatal threshold no longer exceeded	情報	/SYS/PS0/T_OUT /SYS/PS1/T_OUT /SYS/MB/T_IN_ZONE0 /SYS/MB/T_OUT_ZONE0 /SYS/MB/T_IN_ZONE1 /SYS/MB/T_OUT_ZONE1 /SYS/MB/T_IN_ZONE2 /SYS/MB/T_OUT_ZONE2
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded		
Upper fatal threshold exceeded	クリティカル	/SYS/PS0/T_OUT /SYS/PS1/T_OUT /SYS/MB/T_IN_ZONE0 /SYS/MB/T_OUT_ZONE0 /SYS/MB/T_IN_ZONE1 /SYS/MB/T_OUT_ZONE1 /SYS/MB/T_IN_ZONE2 /SYS/MB/T_OUT_ZONE2
sunHwTrapTempFatalThresholdDeasserted		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
Upper fatal threshold no longer exceeded	情報	/SYS/PS0/T_OUT /SYS/PS1/T_OUT /SYS/MB/T_IN_ZONE0 /SYS/MB/T_OUT_ZONE0 /SYS/MB/T_IN_ZONE1 /SYS/MB/T_OUT_ZONE1 /SYS/MB/T_IN_ZONE2 /SYS/MB/T_OUT_ZONE2
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded		
Lower fatal threshold exceeded	クリティカル	/SYS/T_AMB /SYS/MB/T_CORE_NET01 /SYS/MB/T_CORE_NET23 /SYS/MB/T_IN_PS0 /SYS/MB/T_IN_PS1
sunHwTrapTempFatalThresholdDeasserted		
Lower fatal threshold no longer exceeded	情報	/SYS/T_AMB /SYS/MB/T_CORE_NET01 /SYS/MB/T_CORE_NET23 /SYS/MB/T_IN_PS0 /SYS/MB/T_IN_PS1
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded		
Upper fatal threshold exceeded	クリティカル	/SYS/MB/T_CORE_NET01 /SYS/MB/T_CORE_NET23 /SYS/MB/T_IN_PS0 /SYS/MB/T_IN_PS1
sunHwTrapTempFatalThresholdDeasserted		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
Upper fatal threshold no longer exceeded	情報	/SYS/MB/T_CORE_NET01
		/SYS/MB/T_CORE_NET23
		/SYS/MB/T_IN_PS0
		/SYS/MB/T_IN_PS1

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティープレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」

ドライブ関連イベントトラップ

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapSlotOrConnectorError		
Assert	メジャー。スロットまたはコネクタに付属しているセンサーがエラーを検出しました。	/SYS/DBP/HDD0/STATE
		/SYS/DBP/HDD1/STATE
		/SYS/DBP/HDD2/STATE
		/SYS/DBP/HDD3/STATE
		/SYS/DBP/HDD4/STATE
		/SYS/DBP/HDD5/STATE
		/SYS/DBP/HDD6/STATE
		/SYS/DBP/HDD7/STATE
sunHwTrapSlotOrConnectorOk		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
Deassert	情報。スロットまたはコネクタに付属しているセンサーが正常な状態に戻りました。	/SYS/DBP/HDD0/STATE
		/SYS/DBP/HDD1/STATE
		/SYS/DBP/HDD2/STATE
		/SYS/DBP/HDD3/STATE
		/SYS/DBP/HDD4/STATE
		/SYS/DBP/HDD5/STATE
		/SYS/DBP/HDD6/STATE
sunHwTrapTempFatalThresholdExceeded	Upper fatal threshold exceeded	/SYS/PS0/T_OUT
		/SYS/PS1/T_OUT
		/SYS/MB/T_IN_ZONE0
		/SYS/MB/T_OUT_ZONE0
		/SYS/MB/T_IN_ZONE1
		/SYS/MB/T_OUT_ZONE1
		/SYS/MB/T_IN_ZONE2
		/SYS/MB/T_OUT_ZONE2

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティプレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」

電源関連イベントトラップ

説明 - 電源装置センサーがエラーを検出しました。

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapPowerSupplyError		
Assert	メジャー	/SYS/PS0/POLL /SYS/PS1/POLL

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティープレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」

ファン関連イベントトラップ

説明 - ファン速度センサーは、測定値がクリティカルなしきい値設定の上限を上回ったか、クリティカルなしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapFanSpeedCritThresholdExceeded		
Lower Critical threshold exceeded	メジャー	/SYS/MB/FM0/F0/TACH /SYS/MB/FM0/F1/TACH /SYS/MB/FM1/F0/TACH /SYS/MB/FM1/F1/TACH /SYS/MB/FM2/F0/TACH /SYS/MB/FM2/F1/TACH /SYS/MB/FM3/F0/TACH /SYS/MB/FM3/F1/TACH

sunHwTrapFanSpeedCritThresholdDeasserted

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
Lower Critical threshold no longer exceeded	情報	/SYS/MB/FM0/F0/TACH
		/SYS/MB/FM0/F1/TACH
		/SYS/MB/FM1/F0/TACH
		/SYS/MB/FM1/F1/TACH
		/SYS/MB/FM2/F0/TACH
		/SYS/MB/FM2/F1/TACH
		/SYS/MB/FM3/F0/TACH
		/SYS/MB/FM3/F1/TACH
sunHwTrapFanSpeedFatalThresholdExceeded		
Lower fatal threshold exceeded	クリティカル	/SYS/MB/FM0/F0/TACH
		/SYS/MB/FM0/F1/TACH
		/SYS/MB/FM1/F0/TACH
		/SYS/MB/FM1/F1/TACH
		/SYS/MB/FM2/F0/TACH
		/SYS/MB/FM2/F1/TACH
		/SYS/MB/FM3/F0/TACH
		/SYS/MB/FM3/F1/TACH
sunHwTrapFanSpeedFatalThresholdDeasserted		
Lower fatal threshold no longer exceeded	情報	/SYS/MB/FM0/F0/TACH
		/SYS/MB/FM0/F1/TACH
		/SYS/MB/FM1/F0/TACH
		/SYS/MB/FM1/F1/TACH
		/SYS/MB/FM2/F0/TACH
		/SYS/MB/FM2/F1/TACH
		/SYS/MB/FM3/F0/TACH
		/SYS/MB/FM3/F1/TACH

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」

- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティープレゼンス関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」

メモリー関連イベントトラップ

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapSensorNonCritThresholdExceeded		
Upper noncritical threshold exceeded	<p>マイナー。センサーは、測定値がクリティカルでないしきい値設定の上限を上回ったか、クリティカルでないしきい値設定の下限を下回ったことを報告しています。この汎用の「センサー」トラップは、コンポーネントのタイプが SNMP エージェントによって認識されないときに生成されます。sunHwTrapThresholdType オブジェクトにより、しきい値が上限であったか下限であったかが示されます。</p>	<p>/SYS/VPS_CPUS /SYS/VPS_MEMORY</p>
sunHwTrapSensorThresholdOk		
Upper noncritical threshold no longer exceeded	<p>情報。センサーは、測定値が正常な動作範囲内にあることを報告しています。この汎用の「センサー」トラップは、コンポーネントのタイプが SNMP エージェントによって認識されないときに生成されます。</p>	<p>/SYS/VPS_CPUS /SYS/VPS_MEMORY</p>
sunHwTrapComponentFault		

SNMP トラップメッセージ		
Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
event fault.cpu.intel.quickpath.link_slow sunHwTrapComponentFaultCleared	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
event fault.cpu.intel.quickpath.link_slow sunHwTrapComponentFault	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
event fault.cpu.intel.quickpath.unknown-errcode sunHwTrapComponentFaultCleared	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
event fault.cpu.intel.quickpath.unknown-errcode sunHwTrapComponentFault	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
event fault.memory.intel.dimmem.none	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、コンポーネントのタイプが SNMP エージェントによって認識されないときに生成されます。	/SYS/MB

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapComponentFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.none	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFault		
event fault.memory.intel.dimm.memtest-failed	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.memtest-failed	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFault		
event fault.memory.intel.dimm.quadrnk-3rd-slot	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFaultCleared		

SNMP トラップメッセージ		
Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
event fault.memory.intel.dimmm.quadrant-3rd-slot	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFault		
event fault.memory.intel.dimmm.ddr3u-unsupported	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimmm.ddr3u-unsupported	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFault		
event fault.memory.intel.mrc.unknown-errcode	メジャー。コンポーネントで障害が発生した疑いがあります。この汎用の「コンポーネント」トラップは、コンポーネントのタイプが SNMP エージェントによって認識されないときに生成されます。	/SYS/MB
sunHwTrapComponentFaultCleared		
event fault.memory.intel.mrc.unknown-errcode	情報。コンポーネントの障害がクリアされました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。	/SYS/MB

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.udimm-unsupported	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.udimm-unsupported	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.sodimm-unsupported	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.sodimm-unsupported	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.4gb-fused	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.4gb-fused	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.8gb-fused	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.8gb-fused	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
event fault.memory.intel.dimm.incompatible	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.incompatible	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.incompatible-maxranks	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.incompatible-maxranks	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.incompatible-quadrank	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.incompatible-quadrank	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.numranks-unsupported	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.numranks-unsupported	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
event fault.memory.intel.dimm.speed-slow	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.speed-slow	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.disable-quadrank	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.disable-quadrank	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.population-invalid	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.population-invalid	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		
event fault.memory.intel.dimm.out-of-order	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimm.out-of-order	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFault		

SNMP トラップメッセージ		
Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度および説明	センサー名
event fault.memory.intel.dimmem.category-unknown	メジャー。メモリーコンポーネントで障害が発生した疑いがあります。	/SYS/MB/P/D
sunHwTrapMemoryFaultCleared		
event fault.memory.intel.dimmem.category-unknown	情報。メモリーコンポーネントの障害がクリアされました。	/SYS/MB/P/D

関連情報

- [104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」](#)
- [104 ページの「環境関連イベントトラップ」](#)
- [107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」](#)
- [108 ページの「電源関連イベントトラップ」](#)
- [109 ページの「ファン関連イベントトラップ」](#)
- [118 ページの「エンティティープレゼンス関連イベントトラップ」](#)
- [119 ページの「物理セキュリティー関連イベントトラップ」](#)

エンティティープレゼンス関連イベントトラップ

説明 – センサーがエラーを検出しました。この汎用の「コンポーネント」トラップは、SNMP エージェントがコンポーネントのタイプを認識できなかったときに生成されます。

SNMP トラップメッセージ		
Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapComponentError		
ENTITY_PRESENT ASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT
sunHwTrapComponentError		
ENTITY_PRESENT DEASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT
sunHwTrapComponentError		

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
ENTITY_ABSENT ASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT
sunHwTrapComponentError		
ENTITY_ABSENT DEASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT
sunHwTrapComponentError		
ENTITY_DISABLED ASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT
sunHwTrapComponentError		
ENTITY_DISABLED DEASSERT	メジャー	/SYS/MB/P0/PRSNT /SYS/MB/P1/PRSNT

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 119 ページの「物理セキュリティ関連イベントトラップ」

物理セキュリティ関連イベントトラップ

説明 - 侵入センサーは、システムが物理的に改ざんされた可能性があることを検出しました。

SNMP トラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapSecurityIntrusion		
Assert	メジャー	/SYS/INTSW /SYS/SP/SP_NEEDS_REBOOT

SNMPトラップメッセージ

Oracle ILOM イベントメッセージ	重大度	センサー名
sunHwTrapSecurityIntrusion		
Deassert	メジャー	/SYS/INTSW /SYS/SP/SP_NEEDS_REBOOT

関連情報

- 104 ページの「汎用のホストイベントトラップ」
- 104 ページの「環境関連イベントトラップ」
- 107 ページの「ドライブ関連イベントトラップ」
- 108 ページの「電源関連イベントトラップ」
- 109 ページの「ファン関連イベントトラップ」
- 111 ページの「メモリー関連イベントトラップ」
- 118 ページの「エンティティープレゼンス関連イベントトラップ」

ファームウェアとソフトウェアの更新

Oracle では、ファームウェアと OSA ソフトウェアを随時更新しています。

更新は、ソフトウェアリリースとして入手可能です。ソフトウェアリリースには、サーバーのすべてのファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティが含まれています。これらはすべてまとめてテストされます。各ソフトウェアリリースには、README ドキュメントが付属しています。README ドキュメントには、旧リリースから変更された部分と変更されなかった部分が説明されています。

次の各トピックを参照して、サーバーのファームウェアとソフトウェアを取得および更新してください。

説明	リンク
OSA を使用して、サーバーのファームウェアとソフトウェアを取得および更新します。	123 ページの「ファームウェアを取得および更新する (OSA)」
OSA が破壊されたサーバーに OSA を復元します。	125 ページの「OSA を復元する」
My Oracle Support から zip 形式のファイルをダウンロードして更新を取得します。	126 ページの「ソフトウェアリリースをダウンロードする (My Oracle Support)」 127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
物理メディアで更新を取得します。	128 ページの「物理メディアの更新リクエスト」 127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」

関連情報

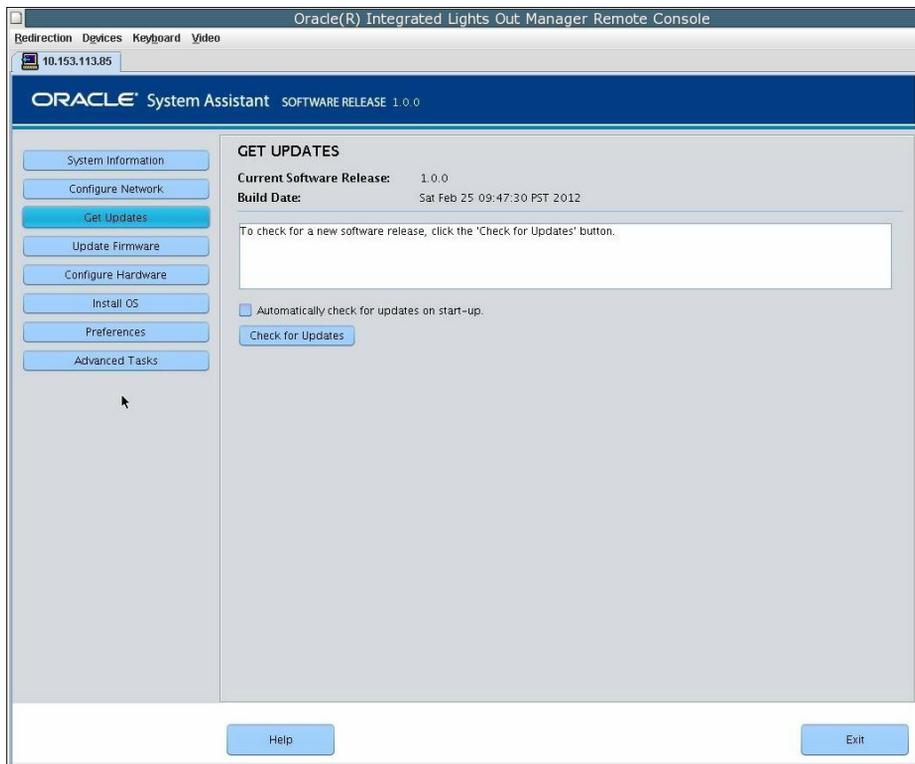
- 9 ページの「管理リソースの理解」
- 19 ページの「管理ツールへのアクセス」
- 41 ページの「サーバーの管理」
- 47 ページの「電源投入およびブートオプションの構成」
- 55 ページの「Oracle ILOM の構成」

- 81 ページの「BIOS の構成」
- 91 ページの「OSA の有効化または無効化」
- 95 ページの「サーバーの監視」

▼ 新規の OSA リリースに更新する

OSA を使用して、サーバー上に OSA をダウンロードし、OSA を更新できます。

- 1 OSA にアクセスします。
34 ページの「OSA へのアクセス」を参照してください。
- 2 「Get Updates」 ボタンをクリックします。



- 3 新しいソフトウェアリリースがないかチェックするには、「Check for Updates」 ボタンをクリックします。

「Check Updates」プロセスが実行されたあと、新しいリストとボタンがペインに表示されます。

- 4 「Available Updates」リストから更新を選択し、「Download and Apply Updates」ボタンを押して更新プロセスを開始します。
- 5 「Exit」をクリックします。

参考 関連情報

- 15 ページの「OSA の概要」
- 123 ページの「ファームウェアを取得および更新する (OSA)」
- 125 ページの「OSA を復元する」
- 126 ページの「更新ソフトウェアの取得」
- 128 ページの「物理メディアの更新リクエスト」

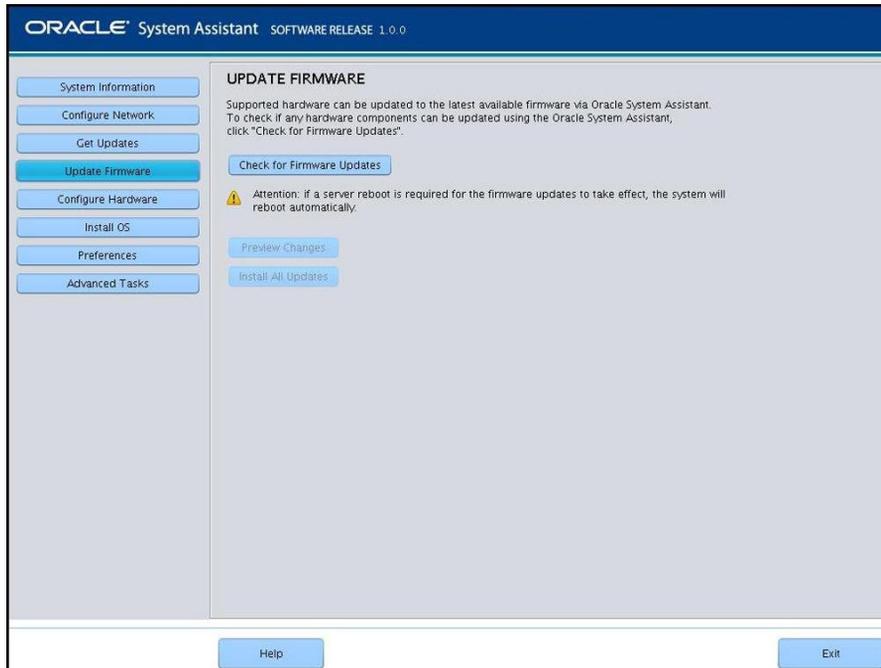
▼ ファームウェアを取得および更新する (OSA)

OSA を使用して、サーバーのファームウェア、ハードウェアドライバ、およびユーティリティを更新できます。

この手順では、更新がないかチェックしてあれば取得し、インストールする更新を選択できるようにし、インストールを実行します。

- 1 OSA にアクセスします。
34 ページの「OSA へのアクセス」を参照してください。
- 2 「Update Firmware」ボタンをクリックします。

- 3 「**Check for Firmware Updates**」をクリックして、**OSA** を使用して更新できるハードウェアコンポーネントがないか確認します。



- 4 「**Preview Changes**」ボタンをクリックします。
新しいウィンドウに、見つかったサーバー用ファームウェアの更新が表示されます。
- 5 インストールするファームウェア更新を選択します。
- 6 「**Install All Updates**」ボタンをクリックして、ファームウェアの更新をインストールします。
ファームウェアの更新を有効にするためにリポートが必要な場合は、サーバーが自動的にリブートされます。
- 7 「**Exit**」をクリックします。

参考 関連情報

- 15 ページの「**OSA の概要**」
- 122 ページの「**新規の OSA リリースに更新する**」
- 125 ページの「**OSA を復元する**」
- 126 ページの「**更新ソフトウェアの取得**」

- 128 ページの「物理メディアの更新リクエスト」

▼ OSA を復元する

OSA が削除または破壊された場合は、My Oracle Support Web サイトで入手可能なイメージファイルをダウンロードして、USB デバイスに復元します。

- 1 **My Oracle Support Web** サイトから適切なイメージをダウンロードします。
使用中のサーバーに固有のイメージを次の場所からダウンロードしてください：
<http://support.oracle.com>
- 2 次のどちらかを実行します：
 - ISO イメージファイルを物理 CD/DVD に書き込みます。
 - ISO イメージファイルをサーバー上でブートデバイスとして使用可能にします。
- 3 **CD/DVD** または **ISO** イメージファイルからブートします。
この操作によって、復旧プログラムが起動されます。復旧プログラムによって OSAUSB デバイスが有効であることが確認されると、復旧を続行するか尋ねるプロンプトが表示されます。

```
This program will restore your Oracle System Assistant embedded
storage device to the version contained on the recovery media.
It will overwrite any existing content on the embedded storage
device.

Would you like to proceed? (yes or no)
```

- 4 「yes」と入力して、復旧プロセスを続行します。
復旧プロセスが開始します。復旧が終了すると、サーバーがリブートされ、OSA が開始されます。
- 5 ISO イメージをマウント解除するか、ドライブから CD/DVD を取り出します。

参考 関連情報

- 15 ページの「OSA の概要」
- 122 ページの「新規の OSA リリースに更新する」
- 123 ページの「ファームウェアを取得および更新する (OSA)」
- 126 ページの「更新ソフトウェアの取得」
- 128 ページの「物理メディアの更新リクエスト」

更新ソフトウェアの取得

次の各トピックを参照して、My Oracle Support から最新の更新済みソフトウェアリリースを取得してください:

- 126 ページの「ソフトウェアリリースをダウンロードする (My Oracle Support)」
- 127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」

関連情報

- 128 ページの「物理メディアの更新リクエスト」

▼ ソフトウェアリリースをダウンロードする (My Oracle Support)

- 1 **My Oracle Support Web** サイトに移動します:
<http://support.oracle.com>
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」ウィンドウが表示されます。
- 4 「検索」ウィンドウで、「製品」または「ファミリー」をクリックします(「拡張検索」)。
ウィンドウに検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドのドロップダウンリストから製品を選択します。
または、一致する名前が表示されるまで製品名の全体または一部(たとえば Netra Server X3-2)を入力します。

- 6 「リリース」フィールドのドロップダウンリストから特定のソフトウェアリリースを選択します。
フォルダを展開して、使用可能なすべてのソフトウェアリリースを表示します。
- 7 「検索」をクリックします。
ソフトウェアリリースは、ダウンロード(パッチ)のセットで構成されます。
使用可能なダウンロードの説明については、[127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)を参照してください。
- 8 必要な各パッチの横にあるチェックボックスをクリックします。
ダイアログボックスが開き、複数のアクションオプションが表示されます。
- 9 更新をダウンロードするには、ポップアップパネルの「ダウンロード」をクリックします。
自動的にダウンロードが開始されます。
- 10 ダウンロードファイルを解凍し、**README** ファイルの更新手順に目を通します。

参考 関連情報

- [127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」](#)

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードが、製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード(パッチ)が含まれます。

各ダウンロードの zip ファイルには、README ファイル、およびファームウェアとソフトウェアファイルが格納されたサブディレクトリのセットが含まれます。README ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

このパッケージをダウンロードするタイミング	パッケージ名	説明
最新のファームウェアを取得するとき。	X4270 M3 SWバージョン - Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。

このパッケージをダウンロードするタイミング	パッケージ名	説明
OS固有のドライバ、ツール、またはユーティリティーを更新するとき。	X4270 M3 SWバージョン - OS Pack	OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できます。各 OS Pack には、その OS バージョン用のすべてのツール、ドライバ、およびユーティリティーのパッケージが含まれます。 ソフトウェアには、Oracle HMP と LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 注 - Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。
システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせを更新するとき。	X4270 M3 SWバージョン - All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメント。 このパックには、Oracle VTS や OSA イメージは含まれません。
Oracle VTS 診断イメージを取得するとき。	X4270 M3 SWバージョン - Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。
OSA を手動で回復および更新するとき。	X4270 M3 SWバージョン - Oracle System Assistant	OSA 回復および ISO 更新イメージ。

関連情報

- [126 ページの「ソフトウェアリリースをダウンロードする \(My Oracle Support\)」](#)

物理メディアの更新リクエスト

物理メディアのリクエストを行うには、サーバーの保証契約またはサポート契約が必要です。

次のいずれかの方法で物理メディアをリクエストしてください:

- [129 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)
- [130 ページの「物理メディアのリクエスト \(電話\)」](#)

関連情報

- 126 ページの「更新ソフトウェアの取得」

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

- 1 次の情報を収集します:
 - 製品名、ソフトウェアリリースバージョン、必要なパッチ。
127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。
 - 出荷情報
- 2 次の場所にある **My Oracle Support** に移動します:
<http://support.oracle.com>
- 3 サインインします。
- 4 ウィンドウの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 5 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します:
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します:
メディアのリクエスト(レガシー Oracle 製品、Primavera、BEA、Sun 製品)
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次を入力します。
Netra Server X3-2 の最新ソフトウェアリリースの PMR。
- 6 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します:

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	はい
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	いいえ
CD や DVD でパッチをご希望ですか。	はい

質問	回答
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	該当するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Netra Server X3-2 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 7 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 8 「次へ」をクリックします。
- 9 「関連ファイル」の下に、次のように入力します。
Knowledge Article 1361144.1.
- 10 送信ボタンをクリックします。

参考 関連情報

- 130 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

- 1 次の情報を収集します:
 - 製品名、ソフトウェアリリースバージョン、必要なパッチ。
127 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。
 - 出荷情報
- 2 **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます:
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>

- 3 **Netra Server X3-2** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報を入手できる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、**Oracle** の Sun Netra X4270 M3 サーバーの最新のソフトウェアリリースを請求してください。

参考 **関連情報**

- [129 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)

用語集

A

ACPI	Advanced Configuration and Power Interface。
ANSI SIS	American National Standards Institute Status Indicator Standard (米国規格協会ステータスインジケータ規格)。
ASF	Alert Standard Format (警告標準フォーマット) (Netra 製品のみ)。
ASR	Automatic System Recovery (自動システム回復)。
AWG	American Wire Gauge。

B

BAT	Basic Assurance Test。
BIOS	Basic Input Output System (基本入出力システム)。
blade (ブレード)	サーバーモジュールおよびストレージモジュールの総称の用語。 server module (サーバーモジュール) および storage module (ストレージモジュール) を参照してください。
blade server (ブレードサーバー)	サーバーモジュール。 server module (サーバーモジュール) を参照してください。
BMC	Baseboard Management Controller。
BOB	Memory Buffer On Board (オンボードのメモリーバッファー)。

C

chassis (シャーシ)	サーバーの場合は、サーバーの格納装置を指します。サーバーモジュールの場合は、モジュラーシステムの格納装置を指します。
-------------------	--

CMA	ケーブル管理アーム。
CMM	シャーシ監視モジュール。CMM はモジュラーシステム内のサービスプロセッサです。Oracle ILOM は CMM 上で動作して、モジュラーシステムシャーシ内のコンポーネントの電源管理 (LOM) を提供します。 Modular system (モジュラーシステム) および Oracle ILOM を参照してください。
CMM Oracle ILOM	CMM 上で動作する Oracle ILOM。 Oracle ILOM を参照してください。

D

DHCP	動的ホスト構成プロトコル。
disk module (ディスクモジュール) または disk blade (ディスクブレード)	ストレージモジュールの別名。 storage module (ストレージモジュール) を参照してください。
DTE	Data Terminal Equipment (データ端末装置)。

E

ECC	Error-correcting code (誤り訂正符号)。
EIA	Electronics Industries Alliance (米国電子工業会)。
ESD	Electrostatic Discharge (静電放電)。

F

FEM	Fabric Expansion Module (ファブリック拡張モジュール)。FEM により、サーバーモジュールは特定の NEM によって提供される 10GbE 接続を使用できます。 NEM を参照してください。
FRU	Field-Replaceable Unit (現場交換可能ユニット)。

G

GPT	GUID パーティションテーブル。
------------	-------------------

GRUB GRand Unified Bootloader。1台のコンピュータで複数のOSのブートをサポートするGNU実装。

H

HBA Host Bus Adapter (ホストバスアダプタ)。

HMP Hardware Management Pack。

host
(ホスト) Oracle Solaris OS およびその他のアプリケーションを実行する、CPU およびその他のハードウェアを備えたサーバーまたはサーバーモジュールの部分。ホストという用語は、プライマリコンピュータとSPを区別するために使用されます。[SP](#)を参照してください。

I

ICMP Internet Control Message Protocol (インターネット制御メッセージプロトコル)。

IDE Integrated Development Environment (統合開発環境)。

ID PROM サーバーまたはサーバーモジュールのシステム情報が格納されたチップ。

IP Internet Protocol (インターネットプロトコル)。

K

KVM キーボード、ビデオ、マウス。複数のコンピュータで1つのキーボード、1つのディスプレイ、1つのマウスを共有するには、スイッチの使い方を参照してください。

L

LwA 音響パワーレベル。

M

MAC	Machine Access Code (マシンアクセスコード)。
MAC アドレス	メディアアクセス制御アドレス。
MBR	マスターブートレコード。
Modular system (モジュラーシステム)	サーバーモジュール、ストレージモジュール、NEM、および PCIEM を収納するラックマウント可能シャーシ。モジュラーシステムは CMM を介して Oracle ILOM を提供しません。
MSGID	メッセージ識別子。

N

name space (名前空間)	最上位の Oracle ILOM CMM ターゲット。
NEBS	Network Equipment-Building System (ネットワーク機器構築システム) (Netra 製品のみ)。
NEM	Network Express Module。NEM は、10/100/1000 Mbps Ethernet、10GbE Ethernet ポート、および SAS 接続をストレージモジュールに提供します。
NET MGT	ネットワーク管理ポート。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上の Ethernet ポート。
NIC	Network Interface Card/Controller (ネットワークインタフェースカードまたはネットワークインタフェースコントローラ)
NMI	マスク不可能割り込み。

O

OBP	OpenBoot PROM。
Oracle ILOM	Oracle Integrated Lights Out Manager。Oracle ILOM ファームウェアは、各種 Oracle システムにインストール済みです。Oracle ILOM を使用すると、ホストシステムの状態に関係なく、Oracle サーバーをリモートから管理できます。
Oracle Solaris OS	Oracle Solaris Operating System (Oracle Solaris オペレーティングシステム)。
OS	オペレーティングシステム。

OSA Oracle System Assistant。

P

PCI Peripheral Component Interconnect。

PCI EM PCIe ExpressModule。PCI Express の業界標準フォームファクタに基づくモジュールコンポーネントで、ギガビット Ethernet やファイバチャネルなどの I/O 機能を提供します。

PDB Power Distribution Board (配電盤)。

PMR Physical Media Request (物理メディアリクエスト)。

POST Power-On Self-Test (電源投入時自己診断)。

PROM Programmable Read-Only Memory (プログラム可能な読み取り専用メモリー)。

PSH Predictive Self Healing (予測的自己修復)。

PXE Pre-boot eXecution environment。

Q

QSFP Quad Small Form-factor Pluggable (クワッドスモールフォームファクタプラグブル)。

R

REM RAID 拡張モジュール。HBA とも呼びます [HBA](#) を参照してください。ドライブへの RAID ボリュームの作成をサポートします。

RHEL Red Hat Enterprise Linux。

S

SAN ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network)。

SAS Serial Attached SCSI。

SATA Serial Advanced Technology Attachment (シリアル ATA)。

SCC	System Configuration Chip (システム構成チップ)。
SER MGT	Serial Management Port (シリアル管理ポート)。サーバー SP、サーバーモジュール SP、および CMM 上のシリアルポート。
server module (サーバーモジュール)	モジュラーシステムで主要な演算リソース (CPU とメモリー) を提供するモジュラーコンポーネント。サーバーモジュールには、オンボードストレージおよび REM と FEM を保持するコネクタがある場合もあります。
SLES	SUSE Linux Enterprise Server。
SMART	Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology (自己監視、自己分析、および自己報告のテクノロジー)。
SNMP	Simple Network Management Protocol。
SP	Service Processor (サービスプロセッサ)。サーバーまたはサーバーモジュールの SP は、専用の OS を搭載したカードです。SP は Oracle ILOM コマンドを処理し、ホストの電源管理 (LOM) を提供します。 host (ホスト) を参照してください。
SRU	Support Repository Update。Oracle Solaris OS の更新に使用されます。
SSD	Solid-State Drive (半導体ドライブ)。
SSH	Secure Shell。
storage module (ストレージモジュール)	サーバーモジュールに演算ストレージを提供するモジュラーコンポーネント。

T

TIA	Telecommunications Industry Association (米国通信工業会) (Netra 製品のみ)。
Tma	Maximum Ambient Temperature (最大周囲温度)。
TPM	Trusted Platform Module (Windows 2008 の機能)。

U

UCP	Universal Connector Port (ユニバーサルコネクタポート)。
UEFI	Unified Extensible Firmware Interface。
UI	User Interface (ユーザーインタフェース)。
UL	Underwriters Laboratory Inc.

U.S. NEC United States National Electrical Code (米国電気工事基準)。

UTC Coordinated Universal Time (協定世界時)。

UUID Universal Unique Identifier (汎用一意識別子)。

V

VM Virtual Machine (仮想マシン)。

W

WDS Windows 展開サービス。

WIM Windows Imaging Format。

WWN World Wide Name。SAS ターゲットを一意に特定する番号。

索引

A

Administrator ユーザーロール, 68
Admin ユーザーロール、Oracle ILOM, 68
Advanced メニュー、BIOS, 29
Advanced ユーザーロール, 68
Auto Power-on Host On Boot ポリシー, 47

B

BIOS, 9
 Main メニュー, 30-31
 POST, 30-31
 UEFI モード, 13
 アクセス, 27
 概要, 13
 キーマッピング, 28
 構成, 81-90
 デフォルト設定へのリセット, 82-83, 83
 バージョン、表示, 99-100
 レガシーモード, 13
BIOS 設定ユーティリティ, 30-31
 「Save and Exit」ウィンドウ, 33
 メニュー, 29, 31-32
 ログアウト, 33
Boot メニュー、BIOS, 29

C

CLI
 Oracle ILOM, 23-24

CLI (続き)

 ホストコンソールへのアクセス, 25
Console ユーザーロール、Oracle ILOM, 68
Ctrl キーシーケンス、BIOS, 28

E

exit コマンド, 27

H

HMP, 9
 概要, 16
 ハードウェア RAID 管理, 17

I

I/O リソースの割り当て, 87
 有効化または無効化, 88
I/O リソース割り当て、構成, 87
IO メニュー、BIOS, 29
IPMI と Oracle ILOM, 11
IP アドレス、SP, 99-100

K

KVMS, 26

L

LSI MegaCLI ストレージマネージャー, 17
LSI SAS2 ユーティリティ, 17

M

Main メニュー、BIOS, 29

N

NET MGT ポート、構成, 59-61

O

Operator ユーザーロール, 68
Option ROM、有効化または無効化, 85-86
Oracle Enterprise Manager Ops Center, 18
Oracle ILOM, 9
 CLI にログインする, 24
 CLI へのログイン, 23-24
 IPMI インタフェース, 11
 root パスワード
 回復, 56-57
 変更, 55-56, 64-66, 75-76
SNMP, 11
Web インタフェースへのログイン, 20-21
 概要, 11
 機能, 11
 構成, 57
 識別情報の構成, 57-59
 システム識別子, 57-59
 システムの場所, 57-59
 システム連絡先, 57-59
 定義済みユーザーロール, 68
 物理プレゼンスチェック, 57-59
 ホストコンソールへのアクセス, 25
 ホスト名, 57-59
 ユーザーアカウント、構成, 66-68, 76-78
 ユーザーロール, 68
 リモートコンソールへのアクセス, 21-23
 ログアウト, 27
OSA, 9

OSA (続き)

 「Summary」 ページ, 35-37
 アクセス, 34-35, 35-37
 概要, 15
 新規リリースへの更新, 122-123
 ハードウェア RAID 管理, 17
 復元, 125-126
 無効化, 91-92
 メインウィンドウ, 34-35
 有効化, 92-93
 ログアウト, 37-38
OSA の復元, 125-126

R

RAID 管理, 17
reset /SP コマンド, 43-44
reset /System コマンド, 43
Reset and Host control ユーザーロール、Oracle ILOM, 68
RFID タグ, 95-96

S

「Save and Exit」ウィンドウ、BIOS 設定
 ユーティリティ, 33
SER MGT ポート
 構成, 61-63
 デフォルト設定, 24
Service ユーザーロール、Oracle ILOM, 68
Set Host Power to Last Power State ポリシー, 47
SNMP と Oracle ILOM, 11
SNMP トラップ、理解, 103
SP
 IP アドレス, 99-100
 MAC アドレス, 99-100
 クロック、構成, 75
 ネットワーク、構成, 70-71, 72-74
 リセット, 43-44
 リセットボタン, 43-44
SP リセットボタンのピンホール, 43-44
start /HOST/console コマンド, 25
 「Summary」 ページ、OSA, 35-37

T

Telco アラーム、状態を手動で変更, 44-45

U

UEFI BIOS モード, 13

UEFI Driver Control メニュー、BIOS, 29

User Management ユーザーロール、Oracle ILOM, 68

あ

アクセス

BIOS, 27

BIOS 設定ユーティリティ, 30-31

Oracle ILOM, 19

OSA, 34, 35-37

OSA Oracle ILOM Web インタフェース, 34-35

アドオンカード構成ユーティリティ, 38-39
ツール, 19-39

アドオンカード構成ユーティリティ, 38-39

アラーム、状態を手動で変更, 44-45

い

一時ブートデバイス、選択, 51-52, 52-53

イベントログ、管理, 101-102

か

概要

BIOS, 13

HMP, 16

Oracle ILOM, 11

OSA, 15

監査ログ、管理, 101-102

監視

サーバー, 95-120

サーバーの健全性, 100

管理

イベントログと監査ログ, 101-102

管理 (続き)

サーバー, 41-45

ツール, 9

電源状態, 41, 42-43

ハードウェア RAID, 17

リソース, 9-18

き

キーマッピング、BIOS, 28

強化された PCIe 冷却モードポリシー、構成, 78-79

共通の管理ツール, 9

こ

更新

OSA, 122-123

ファームウェアとソフトウェア, 121-131

構成

BIOS, 81-90

BIOS のデフォルト設定, 82-83, 83

I/O リソース割り当て, 87

NET MGT ポート, 59-61

Oracle ILOM, 57

Oracle ILOM root パスワード, 75-76

Oracle ILOM 識別情報, 57-59

Oracle ILOM ユーザーアカウント, 66-68, 76-78

SER MGT ポート, 61-63

SP クロック, 75

SP ネットワーク, 70-71, 72-74

アドオンカード, 38-39

強化された PCIe 冷却モードポリシー, 78-79

デバイス, 88

電源投入ポリシー, 47, 48-49, 49-50

日付と時間, 71-72

ブートデバイスの優先順位, 51

物理プレゼンスチェック, 57-59

レガシー Option ROM の割り当て, 84

コントローラプロパティ, 38-39

さ

サーバー

- 位置特定, 96-97

- 監視, 95-120

- 管理, 41-45

- 健全性、監視, 100

- 情報、表示, 97-99, 99

- シリアル番号、取得, 95-96

- 問題がないかチェック, 100-101

- サーバーの位置を特定する, 96-97

し

- システム識別子、Oracle ILOM, 57-59

- システムの場所、Oracle ILOM, 57-59

- システム連絡先、Oracle ILOM, 57-59

取得

- 更新されたファームウェア, 123-125

- システムのシリアル番号, 95-96

- ソフトウェアの更新, 126

- 消費電力、表示, 102-103

- 消費電力の表示, 102-103

- シリアル管理、取得, 95-96

- シリアル番号, 95-96, 99-100

す

- スタンバイ電源状態, 41

せ

選択

- 一時ブートデバイス

- BIOS, 52-53

- Oracle ILOM Web インタフェース, 51-52

- ブートデバイス, 50

そ

- ソフトウェア、更新, 121-131

ソフトウェアの更新

- 取得, 126

- 物理メディアのリクエスト, 128

- ソフトウェアリリース、ダウンロード, 126-127

- ソフトウェアリリースのダウンロード, 126-127

- ソフトウェアリリースパッケージ, 127

つ

ツール

- アクセス, 19-39

- 管理用, 9

- ハードウェア RAID 管理用, 17

- 複数台サーバー管理用, 18

て

デバイス構成

- 変更, 89, 90

- デフォルトの root パスワード、変更, 55-56

電源状態, 41

- 管理, 42-43

- 電源全投入, 41

電源投入

- 構成, 47-53

- ポリシー, 47

- ポリシー、構成, 47, 48-49, 49-50

は

- パッケージ、ソフトウェアリリース, 127

ひ

日付と時間

- 構成, 63-64, 71-72

表示

- サーバー情報, 97-99, 99

- ホストの電源状態, 97-99

ふ

ファームウェア

更新, 121-131

更新の取得, 123-125

ファンクションキー、BIOS, 28

ブート構成, 47-53

ブートデバイス

BIOSからの優先順位の構成, 51

選択, 50

物理プレゼンスチェック、Oracle ILOM, 57-59

物理メディア、更新リクエスト, 128

へ

変更

Oracle ILOM root パスワード, 64-66

Telco アラーム状態, 44-45

デバイス構成, 89, 90

ほ

ホスト

IP アドレス, 99-100

リセット, 43

ホストコンソールへの切り替え, 25

ホスト名、Oracle ILOM, 57-59

ポリシー、電源投入, 47

む

無効化

I/O リソースの割り当て, 88

Option ROM, 85-86

OSA, 91-92

め

メインウィンドウ、OSA, 34-35

メニュー、BIOS 設定ユーティリティー, 29, 31-32

も

問題がないかチェック, 100-101

問題、チェック, 100-101

ゆ

有効化

I/O リソースの割り当て, 88

Option ROM, 85-86

OSA, 92-93

ユーザーロール、Oracle ILOM, 68

り

理解

SNMP トラップ, 103

管理リソース, 9-18

リセット

SP, 43-44

ホスト, 43

リセットボタン、SP, 43-44

リソース、管理, 9-18

リモートコンソール、アクセス, 21-23

リモートリダイレクション, 26

れ

レガシー BIOS モード, 13

レガシー Option ROM の割り当て、構成, 84

ろ

ログアウト

BIOS 設定ユーティリティー, 33

Oracle ILOM, 27

OSA, 37-38

ログイン

Oracle ILOM CLI, 23-24, 24

Oracle ILOM Web インタフェース, 20-21

ログ、管理, 101-102

ロケータ LED, 96-97